

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知技 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	3	なかよしの き	<p>□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】姿勢や口形、発声に注意して話している。 (〔知識および技能〕(1)イ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。</p>
4	2 (話す聞く 2)	たのしい いちにち	<p>◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>☆道徳：B 礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。</p>	<p>◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。</p>
4	2 (話す聞く 2)	わたしの なまえ	<p>◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			☆道徳・特別活動：自己紹介をし、みんなに自分のことを知ってもらおう。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	2	おはなし たくさん ききたいな	△さまざまな本の読み聞かせをとおして、読書への関心を高める。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
4	1 (話す聞く1)	こえの おおきさ どれくらい	◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
	3	かいて みよう	△正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 ⇒知技(3)ウ(7)	◎【知識・技能】平仮名を読み、書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。
4	1 (話す聞く1)	こえを あわせて あいうえお	◇「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。
5	1	あいうえお	△母音や簡単な平仮名の読み方、書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	3 (話す聞く 3)	みつけて はなそう, たの しく きこう	<p>◇挿絵から見つけた話題にそって話し, 相手の話題に対して, 簡単なことを尋ねたり, 応答したりする。</p> <p>△言葉には, 事物の内容を表す働きや, 経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇互いの話に関心をもち, 相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇尋ねたり応答したりするなどして, 少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】言葉には, 事物の内容を表す働きや, 経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において, 互いの話に関心をもち, 相手の発言を受けて話をつないでいる。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】積極的に互いの話に関心をもち, 学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。</p>
	2 (書く1)	かき, かき	<p>△清音と濁音, 半濁音の違いを理解して, 正しく読んだり書いたりし, 主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し, 正しく文を書く。</p> <p>△長音, 拗音, 促音, 撥音などの表記, 助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また, 平仮名及び片仮名を読み, 書くとともに, 片仮名で書く語の種類を知り, 文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど, 感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】長音, 拗音, 促音, 撥音などの表記, 助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方, 句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また, 平仮名を読み, 書くとともに, 文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において, 語と語や文と文との続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に濁音・半濁音の表記, 句点の打ち方を理解し, 学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。</p>
	2	ことばを あつめよう	<p>△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき, つながる言葉を考えて読んだり, 書いたりする。</p> <p>△長音, 拗音, 促音, 撥音などの表記, 助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また, 平仮名及び片仮名を読み, 書くとともに, 片仮名で書く語の種類を知り, 文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき, 語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し, 話や文章の中で使っているとともに, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき, 語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし, 学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	3	くまさんと ありさんの ごあいさつ	<p>□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。</p>
	2 (書<1)	ねこ、ねっこ	<p>△促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	3	ほんを よもう	<p>△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ)</p> <p>【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。</p>
	2 (書1)	ことばを つなごう	<p>△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。</p>
5	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた	<p>△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>
	1	ごじゅうおん	<p>△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5～6	5	けむりの きしゃ	<p>□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。</p>
	2	のぼす おん	<p>△長音の読み方と書き方を理解する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>
6	2 (書く2)	せんせい、あのね	<p>■話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。</p> <p>☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	4 (話す聞く 4)	みんなに はなそう	<p>◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒◎知技(1)キ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。(〔知識及び技能〕(1)キ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。</p>
6	1	たのしく よもう 2 がぎげごの うた	<p>△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、学習の見直しをもって音読しようとしている。</p>
6	3 (書く3)	よく みて かこう	<p>■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：観察カードを書く学習に生かすことができる。</p>	<p>◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見直しをもって記録する文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	6	すずめの 暮らし	<p>□問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒知技(3)エ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。</p>
	2	しゃ、しゅ、しょ	<p>△拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見つけ、正しく読んだり書いたりする。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	1	たのしく よもう 3 きやきゆきよの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(【知識及び技能】(1)ク) 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6～7	12 (書く12)	しらせたい ことを かこ う	<p>■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表◎B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。</p>
	1	は、を、へ	<p>△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆生活科：見つけたことや気づいたことを、文章に書く。</p>	<p>◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。</p>
7	2	としょかんへ いこう	<p>△図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ）</p> <p>【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	2	おはなしのくに	<p>△挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を読もうとしている。</p>
7	6	おおきな かぶ	<p>□繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたり</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。</p>
7	4 (書く4)	えにつき	<p>■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表◎B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p> <p>☆生活科・特別活動：日常生活の中から、楽しかったことやおもしろかったことを見つける。 ☆道徳：書くことをとおして自分の日常生活を振り返る。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	5 (話す聞く 5)	なつのおもいでを はなそう	<p>◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>☆生活科：身近な自然や生活経験に興味をもつ。 ☆道徳：自分の生活について話したり、友達の生活について聞いたりして、自分について振り返る。</p>	<p>◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。</p>
	2	かたかなのことは	<p>△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>☆生活科：身のまわりの自然や食べ物、道具に興味をもつ。</p>	<p>◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	6	けんかした 山	<p>□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：けんかした経験を出し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりして、相手の気持ちになる。</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。</p>
	2	(みんなで たのしく よみましょう。)	<p>□役割を決めてグループで音読する。</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p> <p>【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。</p>
	3	かん字の はじまり	<p>△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	7	だれが、たべたのでしょう	<p>□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。</p>
9～10	13 (書<13)	たのしかったことをかこう	<p>■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとし</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準
			<p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。</p> <p>☆道徳：友達や自分のよいところを見つける。</p>	<p>ている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	2	かぞえうた	<p>△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ</p> <p>☆音楽科：手拍子などで拍子を取りながらリズムよく読む。</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p> <p>【態度】進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。</p>
	3	かぞえよう	<p>△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>☆算数科：正しい読み方で十までの数を数える。個数や順番を正しく数えたり表したりする。</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知技 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	2	しを よもう あめの うた	<p>□イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>
10	6 (書<6)	見つけたよ、いきものひみつ	<p>■生き物と触れ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10 ～ 11	15 (書<10)	一 かかれて いる こと を たしかめよう	<p>□■自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み、乗り物のことを紹介する文章を書く。</p>	
10	5	はたらく じどう車	<p>□「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。</p>
10 ～ 11	10 (書<10)	「のりものカード」でし らせよう	<p>■乗り物について、カードを用いて順序にそって簡単な構成の説明の文章を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科など：読み上げてまちがいを見つける方法は、生活科などでも応用できる。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】進んで事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「のりものカード」を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	5 (話す聞く 5)	えを見て おはなししよ う	<p>◇絵を見て話題を見つけ、友達と話したり、友達の話を聞いて答えたりする。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>【態度】進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。</p>
11	2	かん字の ひろば ① 日づけと よう日	<p>△日付と曜日を表す漢字を正しく読む。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	16(書く10)	二 しゃしんと 文から、 だれが なにを したかを たしかめよう	<input type="checkbox"/> ■写真と文から誰が何をしたかを読み、写真から言葉を想像してお話を書く。	
11	10 (書く4)	うみへの ながい たび	<input type="checkbox"/> 白くまの様子を考えながら声に出して読み、写真と文から、誰が何をしたかを確かめる。 <input type="checkbox"/> △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア <input type="checkbox"/> △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク <input type="checkbox"/> ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア <input type="checkbox"/> □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ <input type="checkbox"/> □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ <input type="checkbox"/> □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ <input type="checkbox"/> □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ <input type="checkbox"/> ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ <input type="checkbox"/> □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えた言葉を発表しようとしている。
11	6 (書く6)	きこえて きたよ、こんなことば	<input type="checkbox"/> ■写真をもとに、ふきだしの中の言葉を考え、お話を書く。 <input type="checkbox"/> △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ <input type="checkbox"/> ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア <input type="checkbox"/> ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ <input type="checkbox"/> ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ <input type="checkbox"/> ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ <input type="checkbox"/> ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ <input type="checkbox"/> ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで想像したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして簡単なお話を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	3	天に のぼった おけやさん	<p>△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、好きなどころを音読する。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。</p> <p>☆道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p>	<p>◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）</p> <p>【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）</p> <p>【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。</p>
11	2	かたかな	<p>△片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>
12	2	かん字の ひろば ② かん字の よみかた	<p>△漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方に よって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
12	4 (書く4)	こころ ぼかぼか 手がみ を かこう	<p>■相手を決めて、気持ちが伝わるように手紙を書く。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表◎B(1)エ</p> <p>■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>【態度】粘り強く文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正し、学習の見通しをもって手紙を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
12	10	三 ばめんの ようすを くらべて よもう	□人物の動きや場面の様子の楽しさを読み、読書の世界を広げる。	
12	5	スイミー	□どのようなお話か考えながら読み、おもしろかったところを紹介する。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って考えた言葉を発表しようとしている。
12	5	「おはなしどうぶつえん」 をつくって、本を しょうかいしよう	□動物の出てくる本を読んで、友達に紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、今までの学習を生かして「おはなしどうぶつえん」を作り、本を紹介しようとしている。
1	1	しを たのしもう ゆき	△イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見直しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	14 (書く5)	四 ぶんしょうと えを あわせて よもう	□文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文章を書く。	
		みぶりで つたえる	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・生活科など：日常生活の中で使う身振りについて振り返り、気持ちを相手に伝える際に役立つ。</p>	<p>◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p> <p>【態度】積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
1	1	文を つくろう	<p>△主語と述語の関係に気をつけながら、いろいろな文を作る。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【態度】進んで文の中における主語と述語との関係に気付こうとし、学習課題に沿って簡単な文を作ろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	2	かん字の ひろば ③ かわる よみかた	<p>△使い方によって漢字の読み方が変わるものがあることを理解する。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1～2	8 (話す聞く8)	五 きいた ことを 正しく つたえよう	◇学校で働く人に、知りたいことを尋ねて、聞いたことをメモをもとに学級のみみんなに知らせる。	
		学校の ことを つたえよう お	△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) 【態度】進んで伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かして聞いたことを伝えようとしている。
2	3	ことばで つたえよう	△目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【態度】進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って言葉で表そうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	8 (書<8)	六 つたえたい ことを おもい出して かこう	■経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。	
		おもい出の アルバム	<p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ）</p> <p>【態度】積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。</p>
2	3	かん字の ひろば ④ にて いる かん字	<p>△形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	1	しりとりで あそぼう	<p>△二音節単位でつなげていく「しりとり遊び」のあることを知り、実際に活動してみる。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>【態度】進んで音節と文字との関係に気付こうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2～3	15 (書く5)	七 ようすを おもいうか べながら よもう	□様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く。	
		お手がみ	<p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p> <p>【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習課題に沿って登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。</p>
3	2 (話す聞く1,書く1)	こくごの がくしゅう こ れまで これから	<p>◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】進んで話題を決め、これまでの学習を生かして思い出したことや二年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと △知技 ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	—	二年生で 学ぶ こと		
4	6 (書く 4)	ことばと であおう	□■詩を体を動かしながら声に出して読んだり、日記を書いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。	
4	2	ちいさい おおきい	□体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読もう。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
		(どんな よみかたを するか かんがえて、こえに出して たのしもう。)		
4	4 (書く 4)	つづけて みよう 一日記	■毎日の生活を振り返り、日記を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ ☆生活科：観察日記を書く活動に生かすことができる。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
4	3 (話す聞く 3)	声の ものさしを つかおう	◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考え、気をつけて話すことの大切さに気づく。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習の見通しをもって話そうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4～5	13 (話す聞く3)	一 どうじょう人物のし たことに 気をつけて 読もう	□登場人物の様子を思いつきながら読み、くまの子 になったつもりで音読する。	
		「えいっ」	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験し たことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて 音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや 速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいこ とを落とさないように集中して聞き、話の内容 を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大 体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具 体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感 想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共 有すること。 ⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話した り、それらを聞いて声に出して確かめたり感想 を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりし て、内容や感想などを伝え合ったり、演じたり する活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B感謝 家族など日頃世話になってい る人々に感謝すること。	◎【知識・技能】語のまとまり や言葉の響きなどに気を付けて 音読している。(【知識及び技 能】(1)ク) 【思考・判断・表現】「話すこ と・聞くこと」において、話し 手が知らせたいことや自分が聞 きたいことを落とさないように 集中して聞き、話の内容を捉え て感想をもっている。(【思考 力、判断力、表現力等】Aエ) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、場面の様子や 登場人物の行動など、内容の大 体を捉えている。(【思考力、 判断力、表現力等】Cイ) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、場面の様子に 着目して、登場人物の行動を具 体的に想像している。(【思考 力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで場面の様子や登 場人物の行動など、内容の大体 を捉え、学習の見直しをもって おもしろいところを紹介しよう としている。
5	2 (話す聞 く2)	ひろい 公園	◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを 探す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験し たことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との 関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決 め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験し たことに基づいて、話す事柄の順序を考えるこ と。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや 速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいこ とを落とさないように集中して聞き、話の内容 を捉えて感想をもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で 話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解している。 (【知識及び技能】(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「話す こと・聞くこと」において、話 し手が知らせたいことや自分が 聞きたいことを落とさないよう に集中して聞き、話の内容を捉 えて感想をもっている。(【思 考力、判断力、表現力等】A エ) 【態度】積極的に自分が聞きた いことを落とさないように集中 して聞き、学習課題に沿って質 問に答えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	2	漢字のひろば ① 画と書きじゆん	△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。
	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	13 (書く3)	二 じゅんじょに 気をつけて読み、つながりを見つけよう	□ありとの関わりに気をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。	
		すみれと あり	<p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア</p> <p>☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめる。</p>	<p>◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）</p> <p>【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	2	「言葉あそび」をしよう	<p>△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク</p> <p>△長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(【知識及び技能】(1)ク)</p> <p>◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(【知識及び技能】(3)イ)</p> <p>【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>
6	3	かたかなで書く言葉	<p>△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)ウ)</p> <p>【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、これまでの学習を生かして文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	8 (書く6)	三本でしらべてしようかいしよう	<p>△図書館で本を探す方法を知り、生き物について調べたことからクイズを作る。</p>	
6	2	図書館で本をさがそう	<p>△図書館に行き、自分が調べたり読んだりしたいテーマの本を探して、読む。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(【知識及び技能】(3)エ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ)</p> <p>【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。</p>
6	6 (書く6)	「生きものクイズ」を作ろう	<p>■生き物について知りたいことを調べ、クイズを作る。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒知技(3)エ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎B思判表(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科など：題材は生活科で学んだ生き物から選ばせることもできる。</p>	<p>◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ)</p> <p>【態度】積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	2	漢字のひろば ② なかまの言葉と漢字	<p>△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知ろうとしている。</p>
6	4 (話す聞く2)	うれしくなる言葉	<p>△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>【態度】積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6～7	15 (書く3)	四 くりかえしに 気をつけて、とうじょう人物の様子を 読もう	□繰り返し出てくる言葉に気をつけて読み、繰り返しのあるお話を作る。	
		きつねの おきやくさま	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り、友達に紹介する。</p> <p>☆道徳：D 生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔知識及び技能〕(1)ク</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。</p>
7	5	いなばの しろうさぎ	<p>△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。</p> <p>☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p>	<p>◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。〔知識及び技能〕(3)ア)</p> <p>【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	4 (書く4)	「かんさつ発見カード」を書こう	<p>■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。</p>
7	2	「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	<p>△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりすることができる。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	5 (話す聞く5)	話したいな、聞きたいな、 夏休みのこと	◇夏休みの思い出を、順序を考えて話す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知りたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みの
9	2	漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	△二つの漢字でできた言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。
	2 (書く2)	漢字のひろば ③ 一年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表している。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p>△文中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(1)ア</p>	<p>書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	12 (書く3)	五 したことや言ったことから、登場人物の考えを読 わにのおじいさんのたから もの	<input type="checkbox"/> 登場人物のしたことを思い浮かべながら読み、登場人物に手紙を書く。 <input type="checkbox"/> 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア <input type="checkbox"/> 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ <input type="checkbox"/> 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ <input type="checkbox"/> 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ <input type="checkbox"/> 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ <input type="checkbox"/> 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ <input type="checkbox"/> 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ <input type="checkbox"/> 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ <input type="checkbox"/> 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D感動、畏敬の念 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物に手紙を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	2	ほんたいのいみの言葉、に たいみの言葉	<p>△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集めることができる。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【態度】積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9～10	11 (書く11)	六 まとまりを考えて書く う	<p>■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて、町探検報告文を書く。</p>	
		町の「すてき」をつたえます	<p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：生活科見学の報告文を書くときに生かすことができる。</p>	<p>【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	2(書く1)	七 しゃしんをくらべて、考えよう	□ 1枚めの写真から視点を定めて、2枚めの写真になった際、何かが起きたことを想像する。	
		この間に何があった？	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ</p>	<p>◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的に共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと △知技 ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	—	二年生で学ぶこと		
10	11 (話す聞く3)	一 じゅんじょや様子に気をつけて読もう	□さけの成長について、季節や場所、さけの様子の移り変わりを考えながら、内容の大体を読む。	
		さけが大きくなるまで	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考慮すること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア</p> <p>☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめたり、調べたことを発表したりする。</p>	<p>◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさけが大きくなる様子を説明しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10 ～ 11	10 (書く 10)	二 様子をよく見て、くわしく書こう	■見つけた物の様子をよく見て、様子が伝わるように詳しく書く。	
		おもしろいもの、見つけたよ	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表◎B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
	2	しを読もう てんとうむし 木	□イメージの自由な広がりをとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	12	三 だれが、どのようにかわったかを考えて読もう	□△登場人物のしたことや言ったこと、場面の様子を 読み、読書の世界を広げる。	
11	7	ないた赤おに	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
11	5	「お話びじゅつかん」を作ろう	△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(【知識及び技能】(3)エ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	8 (話す聞く8)	四 しつもんしたり答えたりして、話し合おう	◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。	
		「クラスお楽しみ会」をひらこう	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に互いの話に関心をもち、今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。
11	5 (書く5)	みじかい言葉で	■心が動いたことを短い言葉で書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に語と語や文と

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
				文との続き方に注意しながら、学習の見通しをもって心が動いたことを短い言葉で書こうとしている。
12	2	漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 (〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。
12	2 (書く 2)	漢字の広場 ④ 一年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
12	19 (書く 10)	五 わかりやすくせつめい するための、くふうをたし かめよう	<p>□■説明の順序を正しく捉えながら読み、おも ちゃの作り方を説明する。</p>	
12	12 (書く 3)	「しかけ絵本」を作ろう	<p>□説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵 本」の仕組みや作り方を書いた文章を読む。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験し たことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄 の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒ 思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工 夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えなが ら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C (1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこ と。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感 想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共 有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観 察したことを記録したりするなど、見聞きした ことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分 かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思 判表C(2)ア</p> <p>☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順 を説明する文章を書く。</p>	<p>【知識・技能】言葉には、事物 の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに 気付いている。(【知識及び技 能】(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこ と」において、自分の思いや考 えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考え ている。(【思考力、判断力、 表現力等】Bイ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、時間的な順序 や事柄の順序などを考えなが ら、内容の大体を捉えている。 (【思考力、判断力、表現力 等】Cア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、文章の中の重 要な語や文を考えて選び出して いる。(【思考力、判断力、表 現力等】Cウ)</p> <p>【態度】進んで時間的な順序や 事柄の順序などを考え、学習課 題に沿って「しかけ絵本」を作 ろうとしている。</p>
12	7 (書く 7)	おもちゃのせつめい書を書 こう	<p>■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて、 説明書を書く。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験し たことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との 関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くこ とを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたり して、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思 判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄 の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒ 思判表B(1)イ</p>	<p>◎【知識・技能】共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解している。 (【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書く こと」において、語と語や文と 文との続き方に注意しながら、 内容のまとまりが分かるように 書き表し方を工夫している。 (【思考力、判断力、表現力 等】Bウ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書く こと」において、文章を読み返</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃから選ぶこともできる。</p>	<p>ず習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>【態度】粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	2	しを読もう せかいじゅうの海が	<p>□イメージの自由な広がりをとおして、詩を楽しむ。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ)</p> <p>【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	11 (話す聞く3)	六 場面や人物の様子をく わしく読もう	□様子を詳しく読んで、読み方を工夫して音読発表会を開く。	
		かさこじぞう	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見直しをもって音読発表会をしようとしている。
1	3	むかしのあそび	△日本に古くから伝承されている昔遊び(正月遊び)を知り、実際に遊ぶことを通してその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く、学習の見直しをもってかるたを楽しもうとしている。
1	4 (話す聞く4)	むかしのあそびをせつめい しよう	◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	3	主語とじゅつ語	<p>△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【態度】積極的に文の中における主語と述語との関係に気付く、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。</p>
2	2	漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	<p>△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	13 (書く 13)	七 じゅんじょに気をつけて書こう	■したことや身のまわりのできごとの中から書くことを見つけ、思い出して、順序を考えて書く。	
		こんなことができるようになったよ	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
2	3	音や様子をあらわす言葉	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使うことができる。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	2	漢字の広場 ⑥ 組み合わせでできている漢字	△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
2 (書く 2)		漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2～3	16 (書く4)	八 場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう	□お話の順序に気をつけて読み、あらすじをまとめて紹介する。	
		アレクサンダとぜんまいねずみ	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもち、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまでこれから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準
			<p>内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒ 思判表B(1)オ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>考力、判断力、表現力等〕 Bア)</p> <p>【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	—	三年生で学ぶこと		
4	4 (話す聞く 2)	ことばに親しもう	□◇声に出して読んだり、わかりやすく話したりすることや、内容を聞き取ったりすることを 楽しみ、国語学習への意欲をもつ。	
4	2 (話す聞く 2)	「じこしょうかいビンゴ ゲーム」をしよう	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身の ことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働 きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、 言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して 話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を比較したり分類したりして、 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎ 思判表A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるよう に理由や事例などを挙げながら、話の構成を考 えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言 葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫するこ と。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら 聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたい ことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを 発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知技】相手を見て話したり 聞いたりしているとともに、言 葉の抑揚や強弱、間の取り方な どに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞く こと」において、目的を意識し て、日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を比較したり分 類したりして、伝え合うために 必要な事柄を選んでいる。 (〔思考力、判断力、表現力 等〕Aア) 【態度】進んで日常生活の中か ら話題を決め、学習の見通しを もって情報を集め、自身のこと を紹介し合おうとしている。
	2	かえるのびよん	□姿や様子をイメージしながら、工夫して音読 する。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら 音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や 情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述 を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景につい て、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想 像すること。 ⇒思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考 えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思 判表C(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内 容の大体を意識しながら音読し ている。(〔知識及び技能〕 (1)ク) ◎【思判表】「読むこと」にお いて、登場人物の行動や気持ち などについて、叙述を基に捉え ている。(〔思考力、判断力、 表現力等〕Cイ) 【態度】進んで登場人物の気持 ちの変化について、場面の移り 変わりと結び付けて具体的に想 像し、学習課題に沿って工夫し て音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4～5	9 (書く2)	一 ばめんのつながりに気をつけて読もう	□登場人物の行動や気持ちを思い浮かべながら読み、物語の続きを予想する。	
		白い花びら	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ</p> <p>■気に入った表現について、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおりて、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。〔知識及び技能〕(3)オ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを友達と紹介し合おうとしている。</p>
5	3 (書く3)	「発見ノート」を作ろう	<p>■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書きたいことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆理科：観察ノートへの応用を図ることができる。</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	2	国語辞典の引き方	<p>△国語辞典の引き方を理解し、辞典を活用する。</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を活用しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	6 (話す聞く 6)	二 すじみちを立てて発表しよう	◇中心点をはっきりさせたり、理由を添えたりして自分の宝物を紹介し、友達の意見や感想をもとによりよい発表にする。	
		たからものをしょうかいしよう	<p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>◇目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことがらを選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇説明や報告など、調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>【態度】粘り強く話の構成を考え、今までの学習を生かして自分の宝物を紹介しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	2 (話す聞く 2)	聞いてさがそう	<p>◇大事なことは何かを考えて、メモを取りながら道順の説明を聞く。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことを選ばせること。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえるとともに、話の内容を基に自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって情報を集めようとしている。</p>
5	2	漢字の広場 ① 漢字学習ノート	<p>△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を使って漢字学習ノートを作る。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ① 二年生で学んだ漢字 ①	<p>△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5～6	12 (書く2)	三 だんらくの要点をつかもう		
5	2	うめぼしのはたらき	<p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。([知識及び技能](1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。([知識及び技能](2)ア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。([思考力、判断力、表現力等]Cウ)</p> <p>【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、学習課題に沿って要点をまとめようとしている。</p>
5～6	10 (書く2)	めだか	<p>□段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア</p> <p>□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。([知識及び技能](1)カ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。([思考力、判断力、表現力等]Bイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。([思考力、判断力、表現力等]Cウ)</p> <p>【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って分かったことや大事なことをまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準
6	4 (書<1)	俳句に親しむ	<p>△俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にす る。</p> <p>☆図書館活用：俳句への関心を広げる。</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>【態度】進んで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6～7	13 (書く10)	四 しりょうを集めて活用しよう		
6	3	本で調べよう	<p>△本の仕組みやつくりを知り、それをもとに知りたいことに応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。</p> <p>△知りたい情報を見つけるための方法を知り、それをもとに目的に応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p> <p>□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ</p> <p>☆理科：図鑑の活用</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>【態度】積極的に、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。</p>
6～7	10 (書く10)	ガラスの「生き物ブック」を作ろう	<p>■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆理科：観察記録文の書き方に活用することができる。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	2	漢字の広場 ② 漢字の音と訓	<p>△漢字の音と訓について理解する。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第3学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字の「音」と「訓」について知り，正しく使おうとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ② 二年生で学んだ漢字 ②	<p>△絵を見て想像したことをもとに，2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	9 (書く2)	五 登場人物のせいかくを 考えながら読もう		
		のらねこ	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやったり、互いに理解し信頼し合ったりすることについて考える。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。〔(知識及び技能)(1)オ〕</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔(思考力、判断力、表現力等)Bウ〕</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。〔(思考力、判断力、表現力等)Cイ〕</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔(思考力、判断力、表現力等)Cエ〕</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔(思考力、判断力、表現力等)Cエ〕</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。〔(思考力、判断力、表現力等)Cカ〕</p> <p>【態度】進んで登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び</p>
7	1 (書く1)	きせつの言葉を集めよう	<p>△俳句には「季語」が読み込まれていることを知り、季節に関係する言葉を集める。</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒知技(3)ア</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。〔(知識及び技能)(3)イ〕</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔(思考力、判断力、表現力等)Bア〕</p> <p>【態度】積極的に、長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り、学習課題に沿って季節の言葉を集めようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	1 (話す聞く 1)	よく見て、話し合おう	<p>◇写真をよく見て、気づいたことや考えたことについてグループで話し合う。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】進んで目的や進め方を確認し、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	16 (話す聞く2, 書く14)	六 つたえたいことをはっきりさせて書こう	■◇取材を通してわかったことを、伝えたいことを明確にして報告文にまとめ、感謝やお誘いの手紙を添えて送る。	
9	10 (話す聞く2, 書く8)	取材して知らせよう インタビューをしよう	<p>■◇取材メモを上手に使う、組み立てを考えながら調べたことを文章にまとめる。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、自分の考えを持つつつ、自分の考えを持つこと。 ⇒知技(1)エ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆社会科：校外学習での報告文の作成に役立つ。</p>	<p>◎【知技】丁寧な言葉を使っていると同時に、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(〔知識及び技能〕(1)キ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、自分の考えを持つこと、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書こうとしている。</p>
9	6 (書く6)	手紙を書いてつたえよう	<p>■手紙の書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p> <p>☆社会科・総合的な学習の時間：依頼状やお礼状を書く際に活用できる。</p>	<p>◎【知技】丁寧な言葉を使っていると同時に、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(〔知識及び技能〕(1)キ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>【態度】粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確認、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	2	漢字の広場 ③ 送りがな	<p>△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 二年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9～10	9 (書く2)	七 場面のおくりものに 気をつけて読もう	□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉える。	
		わすれられないおくりもの	<p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。</p>
10	4	ローマ字	<p>△ローマ字に興味を持ち、ローマ字の書き方について理解し、ローマ字に親しみを持ち、読めるようにする。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p>	<p>◎【知技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準
10	1	ローマ字とコンピューター	<p>△コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第3学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p>	<p>◎【知技】日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】進んで，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で読んだり書いたりし，学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	—	三年生で学ぶこと		
10 ～ 11	16 (話す聞く 9, 書く2)	一 絵文字の特長をとらえよう	◇身のまわりのさまざまな絵文字がどんなことを表しているかなどについて話し合い、絵文字に対する興味や関心を高める。	
10	2 (話す聞く 2)	世界の人につたわるように	◇身のまわりの絵(絵文字)を友達と紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	◎【 知技 】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【 思判表 】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【 態度 】進んで集めた材料を比較したり分類したりして、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。
	7 (書く2)	くらしと絵文字	□段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【 知技 】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【 知技 】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) 【 思判表 】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【 思判表 】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) ◎【 思判表 】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【 態度 】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、身のまわりの絵文字について説明する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10 ～ 11	7 (話す聞く 7)	絵文字で表そう	<p>◇司会や記録などの役割を決めて、保健室を表す絵文字についてグループですすんで話し合う。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。</p>
11	4 (話す聞く 2)	気持ちをつたえる話し方・聞き方	<p>△言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)</p> <p>【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、見通しをもって、気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	2	漢字の広場 ④ へんとつくり	<p>△へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 二年生で学んだ漢字 ④	<p>△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	8 (書く2)	二 登場人物の気持ちをそ うぞうしながら読もう	□会話や行動に注意して、豆太やじさまの気持ちの 変化を想像し、物語のおもしろいところを紹介する。	
		モチモチの木	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒◎思判表C(1)オ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、自分と登場人物を比べて考え、勇気についての見方を深める。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。〔知識及び技能〕(3)オ 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって物語のおもしろいところを紹介しようとしている。
12	6 (書く3)	「おすすめ図書カード」を作ろう	△自ら作品を選び、自分で課題を決めて読書をする。 △「おすすめ図書カード」を作り、本を紹介し合い、さまざまな本を読む。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。〔知識及び技能〕(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「おすすめ図書カード」で本を紹介し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
12	1	こそあど言葉	<p>△指示語のはたらきを理解し、適切に使う。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【態度】進んで指示する語句の役割を理解し、学習課題に沿って、指示する語句を適切に使うとしている。</p>
12	5 (書<5)	はっとしたことを詩に書く	<p>■身近なことを、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって詩を書くようとしている。</p>
12	4 (書<1)	ことわざ・慣用句	<p>△ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒◎知技(3)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	2	詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる いちばんぼし	<input type="checkbox"/> 音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 <input type="checkbox"/> △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、問の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ <input type="checkbox"/> △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒◎知技(1)ク <input type="checkbox"/> △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ <input type="checkbox"/> △登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ <input type="checkbox"/> △文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ <input type="checkbox"/> □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	7 (話す聞く 7)	三 調べて発表しよう	◇町の行事について調べ、図や写真、表など、資料を選んで発表する。	
		町の行事について発表しよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習の見通しをもって、資料を使って発表しようとしている。
1	2	文の組み立て	△主語と述語や修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)
1	2	漢字の広場 ⑤ 漢字の組み立て	△かんむり・あしなどの漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1)・言語活動例 (2)〉	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑤ 二年生で学んだ漢字 ⑤	<p>△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1～2	7 (書く2)	四 図や写真と文章を、むすびつけて読もう	□段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み、考えたことをまとめる。	
		川をさかのぼる知恵	<p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基いて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p> <p>【態度】進んで、文章を読んで理解したことに基いて感想や考えをもち、学習の見通しをもって友達と感想を交流しようとしている。</p>
2	1	十二支と月のよび名	<p>△暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p> <p>【態度】積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見通しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	8 (書<8)	五 つたえたいことの中心 を明らかにして書こう	<p>■身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。</p>	
		強く心にのこっていることを	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせ、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして文や文章を整え、学習の見直しをもって、思い出に残っているできごとについて文章を書く。</p>
2	2	漢字の広場 ⑥ 二つの漢字の組み合わせ	<p>△漢字二字の言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字二字の言葉の構成について考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ㊦ 二年生で学んだ漢字 ㊦	<p>△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒㊦知技(1)エ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒㊦思判表B(1)エ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>㊦【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
3	10 (書く2)	六 登場人物の気持ちのうつりかわりを読もう	□登場人物の心の動きを想像しながら、消えていったおにたに手紙を書く。	
		おにたのぼうし	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p> <p>【態度】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。</p>
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまでこれから	<p>◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項 (1)・言語活動例 (2))	評価規準
4	—	四年生で学ぶこと		
4	4 (話す聞く2)	言葉に親しもう		
4	2 (話す聞く2)	わたしは、だあれ	<p>◇自分の知りたいことを明確にして、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。</p>
	2	春のうた	<p>□◇声に出して読んだり、共通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。 □言葉の響きに気をつけながら、工夫して音読する。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。</p>
		あり		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	10 (書く 3)	一 場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み、松井さんになって、「この日」のできごとを日記に書く。	
		白いぼうし	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けられること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳:物語の読みをとおして、相手のことを思いやり、親切にしたり、真心をもって接することについて考える。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。</p>
4~5	4 (書く 4)	びったりの言葉、見つけよう	<p>■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見直しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	2	漢字の広場 ① 漢字の部首	<p>△漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ)</p> <p>【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5～6	16 (書く3)	二 けっかとけつろんのつ なかりをとらえよう		
5	2	ぞうの重さを量る	<p>□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア)</p> <p>【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見直しをもって、考える筋道をつかもうとしている。</p>
5～6	10 (書く3)	花を見つける手がかり	<p>□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ)</p> <p>【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見直しをもって、結果と結論のつながりを捉えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・ 言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	4	分類をもとに本を見つけよう	<p>△地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。</p> <p>△「日本十進分類法」のしくみを知り、本を探すときに役立つ。</p> <p>△「日本十進分類法」のしくみを知り、分類記号を手がかりに本を探して読む。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。</p> <p>⇒◎知技(3)オ</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p> <p>□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ</p> <p>☆社会、理科、総合：調べ学習で本を探す</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。</p>
6	3 (話す聞く3)	メモの取り方をくふうして聞こう	<p>◇相手の話の大切なことを落とさないように、工夫してメモを取りながら話を聞く。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、大切なことを落とさないように聞こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	2	漢字辞典の引き方	<p>△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	10 (書く 10)	三 伝わりやすい組み立て を考えて書こう	■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。	
		リーフレットで知らせよう	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆社会科：社会科見学との関連を図ることができる。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>【態度】積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。</p>
6～ 7	4 (書く 1)	短歌の世界	<p>△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりす</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			☆道德：我が国や郷土の伝統と文化を大切にす る。 ☆図書館活用：短歌への関心を広げる。	るなどし、学習の見通しをもつ て、言葉のリズムを楽しんだり 様子や気持ちを想像したりしよ うとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	2	漢字の広場 ㊟ 漢字の音を表す部分	<p>△形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒㊟知技(3)ウ</p>	<p>㊟【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ㊟ 三年生で学んだ漢字 ㊟	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒㊟知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒㊟思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>㊟【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	10 (話す聞く2)	四 登場人物のせいかくや、気持ちを想像して読もう	□場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりする。	
7		ぞろぞろ(落語)	<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、落語を音読したり演じたりしようとしている。</p>
9	1 (話す聞く1)	「夏の思い出」記者になろう	<p>◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、相手の話を引き出す質問をしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	11 (話す聞く6, 書く5)	五 写真などの図のよさを 知り, 活用しよう	◇写真は撮り方によって見る人に与える感じが異なることに気づき, 写真や図を効果的に用いて表現する。	
9	6 (話す聞く6)	写真をもとに話そう	◇伝えたいことをはっきりさせて, 理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように, 理由や事例などを挙げながら, 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き, 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え, 自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し, 司会などの役割を果たしながら話し合い, 互いの意見の共通点や相違点に着目して, 考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり, それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ☆特別活動(朝の会など): メモをもとにスピーチをする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話している。(【知識及び技能】(1)イ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において, 相手に伝わるように, 理由や事例などを挙げながら, 話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(【思考力, 判断力, 表現力等】Aイ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において, 話の中心や話す場面を意識して, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫している。(【思考力, 判断力, 表現力等】Aウ) 【態度】粘り強く, 理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え, 学習の見直しをもって, 写真から読み取ったことを話そうとしている。
9	5 (書く5)	新聞を作ろう	■割り付けを工夫して, わかりやすい紙面の新聞を作る。 △漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに, 句読点を適切に打つこと。また, 第3学年においては, 日常使われている簡単な単語について, ローマ字で表記されたものを読み, ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして, 文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり, 相手や目的を意識した表	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに, 句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思判表】「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。(【思考力, 判断力, 表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において, 間違いを正したり, 相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして, 文や文章を整えている。(【思考力, 判断力, 表現力等】Bエ)

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p>現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	<p>【態度】粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。</p>
9	2	漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	<p>△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ)</p> <p>【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。</p>
	1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字	<p>△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えて書いたりしようとしている。</p>
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 三年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p> 漢字等は言葉を使うことには、敬辞と常体との 違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関 係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像し たことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ </p>	<p> 【態度】積極的に前学年や当該 学年で配当されている漢字を使 い、学習課題に沿って、教科書 の絵の中の言葉を使って文を書 こうとしている。 </p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9～10	9 (書く2)	六 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう	□登場人物の思いを想像しながら、二つの場面を比べて読み、読んだ感想を友達に伝える。	
		一つの花	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けよう。⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳:物語の読みをとおして、生きることを喜び、生命を大切にすることを大切にする心をもつことについての考え方を深める。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。([知識及び技能](2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。([思考力、判断力、表現力等]Cエ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。([思考力、判断力、表現力等]Cオ)</p> <p>【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基いて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。</p>
10	2 (書く2)	いろいろな手紙を書こう	<p>■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒◎知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ</p>	<p>◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。([知識及び技能](1)キ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。([思考力、判断力、表現力等]Bエ)</p> <p>【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	2	修飾語	<p>△文の中での修飾語のはたらきを理解する。</p> <p>△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【態度】進んで修飾と被修飾との関係について理解し，学習の見通しをもって，修飾語を見つけたり，修飾語の種類を見分けたりしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	6 (書く 6)	七 自由に想像を広げて書こう	<p>■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。</p>	
		「ショートショート」を書こう	<p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。〔知識及び技能〕(1)ウ</p> <p>◎【【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【【態度】積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	1 (書く 1)	「月」のつく言葉	<p>△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関する言葉を集める。</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関する言葉を集めようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	—	四年生で学ぶこと		
10	8 (書く2)	一 場面のうつりかわりと結びつけ、登場人物の変化を読もう	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにする。	
		ごんぎつね	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ</p> <p>◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳:物語の読みをととして、生命の尊さを感じ取り、生命あるものについての見方を深める。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。〔(知識及び技能)1)オ〕</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔(思考力、判断力、表現力等)B)ウ〕</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔(思考力、判断力、表現力等)C)エ〕</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔(思考力、判断力、表現力等)C)オ〕</p> <p>【態度】積極的に、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10 ～ 11	5	「読書発表会」をしよう	<p>△紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」で発表する。 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」をし、読書の幅を広げる。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ)</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(【知識及び技能】(3)オ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ)</p> <p>【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「読書発表会」で本を紹介しようとしている。</p>
11	4 (話す聞く 1)	言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ	<p>△言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えてりすることによって、言葉の特性について考える。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒◎思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Aイ)</p> <p>【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って、言葉がもつイメージについて考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	8 (話す聞く 8)	二 目的や進め方をたしかめて話し合おう	◇司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えをよく伝え合って話し合う。	
		新スポーツを考えよう	<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇グループや学級全体での話し合いなど、考えを伝え合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り、分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。</p>
11	2	漢字の広場 ④ いろいろな意味を表す漢字	<p>△一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 三年生で学んだ漢字 ④	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11 ～ 12	9 (書く2)	三 大事な言葉や文に気を つけて要約しよう	□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館 の取り組みを時系列に沿って読み、興味をもった点 から整理して文章を要約する。	
		ウミガメの命をつなぐ	<p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指 示する語句と接続する語句の役割、段落の役割につ いて理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など 情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎ 知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め 方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い 方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報 を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3) オ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段 落をつくったり、段落相互の関係に注意したりし て、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を 明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判 表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文 章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよ いところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支 える理由や事例との関係などについて、叙述を基に 捉えること。 ⇒思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要 約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考 えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこ と。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれ を基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考 えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を 述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など 情報と情報との関係について理解している。〔知識及び技 能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め 方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理 解し使っている。〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、 内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意 したりして、文章の構成を考えている。〔思考力、判断力、 表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心とな る語や文を見付けて要約している。〔思考力、判断力、表 現力等〕Cウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したこと に基づいて、感想や考えをもっている。〔思考力、判断力、 表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的に、目的を意識して中心となる語や文を見付 けて要約し、学習の見通しをもって、本教材の紹介文を書 こうとしている。</p>
12	2	二つのことがらをつなぐ	<p>△二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく 変わることを理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使 い分ける。</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増 し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や 役割による語句のまとまりがあることを理解し、語 彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指 示する語句と接続する語句の役割、段落の役割につ いて理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関 係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割 について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【態度】進んで接続する語句の役割について理解し、 学習の見通しをもって、接続語のはたらきを意識して 正しく使い分けようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
12	6 (書く6)	四 調べたことをわかりやすく書こう	<p>■ 図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。</p>	
		「不思議ずかん」を作ろう	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ■ 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■ 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ)</p> <p>【態度】積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。</p>
12	4 (書く1)	故事成語	<p>△故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ ■ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■ 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(【知識及び技能】(3)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p> <p>【態度】積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	2	詩を楽しもう いろいろな詩 おおきな木 とびばこ だんだん	<p>□さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】進んで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表しようとしている。</p>
1	2	漢字の広場 ⑤ 熟語のでき方	<p>△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑤ 三年生で学んだ漢字 ⑤	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1～2	15 (話す聞く9, 書く1)	五 自分の経験と結びつけて考えよう	◇「便利だな」と思うものを思い浮かべ、その理由から自分にとっての「便利」とはどういうことか話し合う。	
1	1 (話す聞く1)	身のまわりの「便利」なものを考えよう	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び、使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。([知識及び技能](1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。([思考力、判断力、表現力等]Aア) 【態度】進んで、目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見直しをもって、クラス全体やグループで話し合おうとしている。
	6 (書く1)	「便利」ということ	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表(2)ウ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆道徳:本文の読みを通して「便利」について考え、相手のことを思いやり、助け合うことへの見方を深める。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。([知識及び技能](2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。([知識及び技能](2)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。([知識及び技能](3)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。([思考力、判断力、表現力等]Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。([思考力、判断力、表現力等]Cカ) 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見直しをもって、「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1～2	8 (話す聞く8)	調べてわかったことを発表しよう	<p>◇調べたことについて、写真や図、表やグラフなどを使って説明したり、話の中心に気をつけて聞いたりする。</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ</p> <p>☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>【態度】積極的に、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。</p>
2	2	点(,)を打つところ	<p>△読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】進んで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	9 (書<9)	六 伝えたいことをはっきりさせて書こう	■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。	
		自分の成長をふり返って	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。</p> <p>⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に、書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。</p>
2	1 (書<1)	雪	<p>△「雪」を扱った言語表現を集める。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	2	漢字の広場 ⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	<p>△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で正しく使おうとしている。</p>
2 (書く2)	2	漢字の広場 ⑥ 三年生で学んだ漢字 ⑥	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、お話の一場面を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
3	8 (書く2)	七 場面のおつり変わりと、登場人物の気持ちの変化を讀もう	□登場人物の考え方の違いや、その移り変わりを考えながら読み、気に入った場面を物語のように書きかえる。	
		木竜うるし(人形げき)	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、脚本を物語のように書きかえようとしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまでこれから	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較し	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次々への希望を話し合ったりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p> たり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表B(2)ア </p>	

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	評価規準
4	-	五年生で学ぶこと		
4	4 (話す聞く2)	言葉で伝え合おう		
4	2 (話す聞く2)	わたしは木	◇友達の言葉や動作を受け止めてつなげる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)
4	1	水平線	◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題 □目や耳で捉えた世界の感じ方を想像しながら詩を読む。	◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔知識及び技能〕(1)ク)
	1	うぐいす	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ	◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。(〔知識及び技能〕(1)ケ) ◎【思判表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで詩の目や耳で捉えた世界の感じ方を想像し、学習の見直しをもって言葉の響き

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4～5	8 (書く2)	一 くふうされた表現をもとに、登場人物のしんじょうをそうぞうして読もう	□登場人物の心情の移り変わりを考えながら読む。	
		いつか、大切などころ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □物語を読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)
5	4 (書く1)	新聞を読もう	□新聞の仕組みを知り、それをもとに同じできごとを扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気づいたことを発表し合ったりする。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア) 【態度】進んで新聞の仕組みを知り、今までの学習を生かして新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて考えたことを話し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	3 (書く 3)	「情報ノート」を作ろう	<p>■興味をもったり、疑問に思ったりしたことについて、情報を集めて「情報ノート」を作る。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒B思判表(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間など：自分の課題を見つける際に有効である。</p>	<p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>◎【思判表】目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>【態度】積極的に文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って感じたり考えたりしたことについて情報を集めて「情報ノート」を作ろうとしている。</p>
5	1	漢字の広場 ① 漢字学習ノート	<p>△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を取り立て、音訓・意味・使い方などを調べて漢字学習ノートを作る。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(【知識及び技能】(1)ウ)</p> <p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。</p>
	1 (書く 1)	漢字の広場 ① 四年生で学んだ漢字 ①	<p>△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5～6	9 (書く2)	二 事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考えよう	□言葉が人の感じ方や行動に影響を与える事例とその理由を解説した文章を読み、言葉の働きに対する見方・考え方を深める。	
5	1	人とねずみの「はい、チーズ！」	□絵と解説文を手がかりに、人とねずみが「はい、チーズ！」という言葉で笑顔になるわけを読み、同じ言葉が異なる働きをすることに気づく。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって同じ言葉が異なる働きをすることに気づき考えたことを文章にまとめようとしている。
5～6	8 (書く2)	言葉と事実	□取り上げられた言語表現の事例とその影響、影響を与えた理由をおさえて読み、自身の言語生活も振り返りながら、事実をとらえる際言葉の働きについて考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア) 【態度】粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって事例と解説に気をつけて文章を読み、言葉と事実の関係について考えようとしている。
6	2	話し言葉と書き言葉	△話し言葉と書き言葉の特徴の違いについて理解したり、場に応じた言葉の選び方の違いや表現の仕方の違いについて理解したりする。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒◎知技(1)イ	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)イ) 【態度】積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って自身の言語生活を振り返って考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	評価規準

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6～7	9 (話す聞く4, 書)	三 伝わるように構成を考えよう	◇■伝えたい相手や目的, 内容を考えて, 構成を工夫して話したり書いたりする。	
6	4 (話す聞く4)	「町じまん」をすいせんしよう	◇推薦するもののよさが伝わるように説明したり, 納得できるかどうかに留意して聞いたりする。 △思考に関わる語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 語句と語句との関係, 語句の構成や変化について理解し, 語彙を豊かにすること。また, 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して, 語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順, 文と文との接続の関係, 話や文章の構成や展開, 話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ △情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的や意図に応じて, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように, 事実と感想, 意見とを区別するなど, 話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【態度】積極的に相手や目的, 内容に合わせた構成を考え, 今までの学習を生かして推薦するもののよさが伝わるように説明したり, 納得できるかどうかに留意して聞いたりしようとしている。
7	5 (書く5)	ポスターを作ろう	■構成や表現を工夫して, ポスターを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ △情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて, 感じたことや考えたことなどから書くことを選び, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように, 文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに, 事実と感想, 意見とを区別して書いたりするなど, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して, 文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど, 考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「書くこと」において, 筋道の通った文章となるように, 文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において, 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに, 事実と感想, 意見とを区別して書いたりしているなど, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において, 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において, 文章全体の構成や書き表し方などに着目して, 文や文章を整えている。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Bオ) 【態度】粘り強くポスター全体の構成や展開を考え, 学習の見通しをもって構成や表現を工夫して, ポスターを作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	3 (書く 1)	漢文に親しむ	<p>△現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを読み味わう。</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。⇒ ◎知技(1)ケ</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆図書館指導：漢文作品を読み広げる。 ☆道徳：漢文のリズムや響きを味わい、外国の文化への関心を高める。</p>	<p>◎【知技】文章を音読している。(〔知識及び技能〕(1)ケ)</p> <p>◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを理解し、今までの学習を生かして漢文を読み味わいながら音読しようとしている。</p>
7	2	敬語	<p>△敬語のはたらきと種類を理解して、正しく使う。</p> <p>△日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。</p>	<p>◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。(〔知識及び技能〕(1)キ)</p> <p>【態度】積極的に敬語を使い慣れること。</p>
7	1	漢字の広場 ② 複合語	<p>△複合語の構成や変化、由来などについて理解を深める。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【態度】積極的に複合語の組み合わせ方について理解し、学習の見通しをもって複合語について、言葉集めをしようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
7	1 (書く 1)	漢字の広場 ② 四年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【 知技 】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【 思判表 】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【 態度 】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。
9	2 (話す聞く 2)	知りたいことを決めて、話を聞こう	◇聞きたいことを明確にして、話を聞く。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知識・技能(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【 知技 】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【 思判表 】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) 【 態度 】粘り強く聞きたいことを明確にして、学習の見通しをもって、話を聞こうとしている(④)。
9	2	詩を味わおう 素朴な琴 鳴く虫 山のあなた	□さまざまな昔の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ	◎【 知技 】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【 知技 】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) ◎【 思判表 】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【 態度 】進んで昔の作品を読み、学習の見通しをもって詩の

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9～10	8 (書く2)	四 物語の全体像をとらえ、やま場の場面を見つけよう 大造じいさんとがん	□残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動に対するの考えを書いたりする。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ □目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア □目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ □事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ■物語を読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳： 物語の読みをとおして、互いに信頼し、謙虚な心で相手と接することについて考える。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、学習の見通しをもって「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動について考えたことを文章にまとめようとしている。
10	1 (書く1)	鳥	△「鳥」を扱った言語表現を集める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】り強く「鳥」を扱った言語表現を集めようとし、学習の見通しをもって感じたり考えたりしたことについて文章に書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	4 (書く 4)	俳句を作ろう	<p>■ 季語や自分の気持ちや様子を表す言葉を選び、俳句を作る。</p> <p>△ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク</p> <p>■ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	<p>◎【知技】 思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【思判表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】 進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって俳句をつくろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	6 (話す聞く6)	五 考えを広げるために、 立場を決めて話し合おう	◇立場を決めて話し合い、さまざまな意見を聞いて自分の考えを広げる。	
		A I とのくらし	<p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒知技(1)キ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇異なる立場を生かした話し合いなど、互いの考えを伝え合う活動。⇒思判表A(2)ウ</p> <p>☆社会科・総合的な学習の時間・特別活動：根拠や理由をはっきりさせて自分の考えを述べる。</p>	<p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】互「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】粘り強く立場を決めて話し合い、学習の見通しをもってさまざまな意見を聞いて自分の考えを広げようとしている。</p>
10	1	漢字の広場 ③ 熟語の構成	<p>△二字熟語の構成や由来について理解を深める。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【態度】粘り強く二字熟語の構成や由来について理解を深め、学習の見通しをもって熟語の構成をもとに意味を考えたり、辞典を使って調べたりしようとしている。</p>
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 四年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」にお</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p>いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>いて、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	評価規準
10	-	五年生で学ぶこと		
10 ～ 11	10 (書く5)	一 多様な情報を読み、根拠となる資料にもとづいて、考えを深めよう	<p>■□多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書く。</p>	
10		世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう	<p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒B思判表(1)エ □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題に沿って自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。</p>
10	4 (書く1)	「古典」を楽しむ	<p>△昔から読み継がれている物語を読み、感想を書く。</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ⇒◎知技(3)イ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区</p>	<p>◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで昔から読み継が</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p>別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：昔の人の思いや考え方にふれ、今と昔の違いや共通点について調べたり、関心を高めたりする。</p>	<p>れている物語を読み、字習の見直しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
10	2	かなづかいで気をつけること	△仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題に沿って文を正しく書こうとしている。
11	1	漢字の広場 ④ 漢字の成り立ち	△漢字の成り立ちについて関心を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違い	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該
11	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 四年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
11	6 (書く1)	二 表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう 雪わたり	<input type="checkbox"/> 表現の工夫や登場人物の関わりをとおして、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。 <input type="checkbox"/> △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク <input type="checkbox"/> △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ <input type="checkbox"/> △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ ■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ <input type="checkbox"/> 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ <input type="checkbox"/> 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ <input type="checkbox"/> 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ <input type="checkbox"/> 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■ 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア <input type="checkbox"/> 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、自分と異なる意見や立場を大切にするとともに、自然の偉大さを知り、自然環境についての考え方を深める。	◎【知技】比喩などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】 進んで物語の表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。
12	5 (書く2)	「図書すいせん会」をしよ	<input type="checkbox"/> 印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開く。 <input type="checkbox"/> 推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ■ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ <input type="checkbox"/> 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ <input type="checkbox"/> 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ <input type="checkbox"/> 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞な	◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】 積極的に推薦の仕方を工夫して、学習課題に沿って「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p> などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。 </p>	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
12	3 (話す聞く1)	言葉で伝える, 心を伝える	<p>△相手の立場を意識しながら, 自分の気持ちを言葉で伝える。</p> <p>△言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように, 事実と感想, 意見とを区別するなど, 話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて, 話の内容を捉え, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い, 考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において, 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて, 話の内容を捉え, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめている。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Aエ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において, 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い, 考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】積極的に相手の立場を意識し, 今までの学習を生かして相手の立場を意識しながら, 自分の気持ちを言葉で伝えようとしている。</p>
	1	詩を味わおう はたはたのうた 雪	<p>□さまざまな昔の作品を読みながら, 詩の世界を味わう。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 語句と語句との関係, 語句の構成や変化について理解し, 語彙を豊かにすること。また, 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して, 語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに, 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き, 共通語と方言との違いを理解すること。また, 仮名及び漢字の由来, 特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて, 描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し, 自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語, 伝記などを読み, 内容を説明したり, 自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに, 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き, 共通語と方言との違いを理解している。また, 仮名及び漢字の由来, 特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において, 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりしている。(〔思考力, 判断力, 表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで昔の作品を読み, 学習の見通しをもって詩の世界を味わおうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1	6 (書く 6)	三 事実と意見を結びつけて書こう	■身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書く。	
		提案文を書こう	<p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bカ)</p> <p>【態度】積極的に身のまわりの生活から課題を見つけ、学習課題に沿って事実と意見を結びつけて提案文を書こうとしている。</p>
2	2	和語・漢語・外来語	<p>△和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、それぞれから受ける印象のちがいについて考えることができる。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>【態度】積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいについて考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2	1	漢字の広場 ⑤ 同じ音の漢字	<p>△同音の漢字，同音異義語について理解する。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】積極的に同音の漢字，同音異義語について理解し，学習課題に沿って同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。</p>
	1 (書く 1)	漢字の広場 ⑤ 四年生で学んだ漢字 ⑤	<p>△絵を見て想像したことをもとに，4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【思判表】筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
1～2	10 (話す聞く5, 書く1)	四 「まんがの方法」とその効果について、自分の考えをもとう	◇文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを理解し、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表す。	
1	5 (書く1)	まんがの方法	<p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p>
1～2	5 (話す聞く5)	ひみつを調べて発表しよう	<p>◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒◎A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒◎A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒A(1)エ</p> <p>◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒A(2)イ</p> <p>☆社会科・総合的な学習の時間・特別活動：根拠や理由をはっきりさせて、自分の考えを述べる。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>【態度】進んで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
2～3	1	漢字の広場 ㊦ 送りがなのきまり	<p>△送り仮名について理解を深め、正しく書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p>	<p>◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しを立てて送り仮名について理</p>
3	1 (書く 1)	漢字の広場 ㊦ 四年生で学んだ漢字 ㊦	<p>△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
3	5 (書く 1)	五 みずぶをさがし求めた 筆者について、考えをまとめよう	□筆者の心情や考えを読み、自分の考えをまとめる。	
		みずぶさがしの旅—みんなちがって、みんないい	<p>△文の中での語句や係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒ ◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒思判表C(1)ア □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ □⇒◎C(1)オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的にノンフィクション作品の筆者の心情や考えについて理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。</p>
3	2 (話す聞く1・書く1)	国語の学習 これまでこれから	<p>◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒ 知技(1)カ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>(◇話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。⇒3・4年 思判表A(2)イ)</p>	<p>【知技】話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>【態度】積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	—	六年生で学ぶこと		
4	—	言葉で伝え合おう		
4	2 (話す聞く 2)	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
4	1	風景 純銀もざいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。〔知識及び技能〕(1)ケ) ◎【思判表】人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
	2	あの坂をのぼれば	□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。⇒知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見直しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
			<p>□文章を読んで理解したに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
4	4 (書く4)	図に表して考えよう	<p>■考えや意見を図に書いてまとめる。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆全ての学習：ノート作りに活用できる。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。〔知識及び技能〕(2)イ</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】粘り強く伝えたいことを明確にしようと、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	11 (書6)	一筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	<p>△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。</p>	
5	3 (書1)	春はあけぼの	<p>△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみをもち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。</p>	<p>◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。([知識及び技能](3)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。([思考力、判断力、表現力等]Cカ)</p> <p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	3	薫風 「迷う」	<p>□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>□事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：随筆の読みをとおして、真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようと考える。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。</p>
5	6 (書く6)	随筆を書こう	<p>■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知・技能(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
5	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	<p>△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心もち調べようとしている。</p>
	1 (書1)	漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	評価規準
5	5 (書く2)	二筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	<p>□■雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめる。</p>	
	5(書く2)	雪は新しいエネルギー	<p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>□事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>【態度】積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。</p>
5	2	主語と述語の対応をみる	<p>△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	10 (話す聞く 6,書く4)	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇ 立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。	
6	8 (話す聞く 8)	地域の防災について話し合おう	◇ 意見の違いを大事にしなが話し合い、考えを深める。 △ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒ ◎知技(1)オ △ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒ 知技(1)キ ◇ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒ 思判表A(1)ア ◇ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒ 思判表A(1)イ ◇ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒ 思判表A(2)ウ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ 【態度】粘り強く意見の違いを大事にしなが話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。
6	6 (書く6)	パンフレットで知らせよう	■ 相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 △ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒ 知技(1)イ △ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒ 知技(1)カ △ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒ ◎知技(2)イ ■ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒ 思判表B(1)ア ■ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒ ◎思判表B(1)イ ■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒ ◎思判表B(1)ウ ■ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒ ◎思判表B(1)エ ■ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒ ◎思判表B(1)オ ■ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒ 思判表B(1)カ ■ 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ア	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。〔知識及び技能〕(2)イ ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ 【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	1 (書く1)	雨	<p>△「雨」を扱った言語表現を集める。</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。〔知識及び技能〕(3)ウ</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア</p> <p>【態度】粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。</p>
7	2	世代による言葉のちがい	<p>△世代による言葉の違いについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。〔知識及び技能〕(3)ウ</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ</p> <p>【態度】積極的に世代による言葉の違いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
6	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	<p>△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。〔知識及び技能〕(3)ウ</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。</p>
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	<p>△絵を見て想像したことをもとに、五年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えた</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	評価規準
7	7 (話す聞く 2)	四 すぐれた表現の効果を考 えて、登場人物の心情を読もう	□優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、 優れた表現についての感想を話し合う。	
7		川とノリオ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎ 知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。⇒◎知技 (1)ケ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続 の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と その特徴について理解すること。⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え 合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇互いの立場や意図を明確にしながらかつ計画的に話し 合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表 A(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を 基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり 、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1) エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考え をまとめること。⇒思判表C(1)◎オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分 の考えを広げること。⇒思判表C(1)◎カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞 いたりする活動。⇒思判表A(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自 分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりす る活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みをととして、生命がかげがえのな いものであることを知り、自他の生命を尊重しようとす る。	◎【知技】比喩や反復などの表現 の工夫に気付いている。([知識及 び技能](1)ク) ◎【知技】文章を音読している。 ([知識及び技能](1)ケ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」にお いて、互いの立場や意図を明確に しながら計画的に話し合い、考えを 広げたりまとめたりしている。([思 考力、判断力、表現力等]Aオ) ◎【思判表】「読むこと」において、 登場人物の相互関係や心情など について、描写を基に捉えている。 ([思考力、判断力、表現力等]C イ) ◎【思判表】「読むこと」において、 人物像や物語などの全体像を具 体的に想像したり、表現の効果を 考えたりしている。([思考力、判断 力、表現力等]Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、 文章を読んで理解したことに基づ いて、自分の考えをまとめている。 ([思考力、判断力、表現力等]C オ) ◎【思判表】「読むこと」において、 文章を読んでまとめた意見や感想 を共有し、自分の考えを広げている。 ([思考力、判断力、表現力等] Cカ) 【態度】進んで優れた表現を味わ いながら、人物の心情を読み優れ た表現を味わいながら、人物の心 情を読み、学習の見通しをもって 優れた表現についての感想を話し 合おうとしている。
9	2 (話す聞く 2)	教えて！あなたの「とっておき」	◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比 べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあること に気付くこと。⇒◎知技(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語 句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知 技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え 合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、 話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分 の考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それ らを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	◎【知技】言葉には、相手とのつな がりをつくる働きがあることに気付 いている。([知識及び技能](1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」に おいて、話し手の目的や自分が聞 こうとする意図に応じて、話の内容 を捉え、話し手の考えと比較なが ら、自分の考えをまとめている。 ([思考力、判断力、表現力等]A エ) 【態度】積極的に話し手の意図を考 慮し、今までの学習を生かして自 分の意見と比べて考えをまとめよ うとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	評価規準
9	1	詩を味わおう イナゴ	<p>□言葉の広がり味わいながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>【態度】積極的に言葉の広がり味わい、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。</p>
9	1 (書く1)	「知恵の言葉」を集めよう	<p>△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	評価規準
9	8 (書く8)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。	
		物語を作ろう	<p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。</p>
	3 (話す聞く1)	会話を広げる	<p>△相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	評価規準
9	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	<p>△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。([知識及び技能](1)オ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。</p>
	1 (書1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいくらいを見付けるところ。⇒思判表B(1)カ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)エ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。([思考力、判断力、表現力等]Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

令和5年度 二之江小学校 年間指導計画・評価規準

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①～10	毛筆の学習が始まるよ 学習の進め方 目次 1 はじめの学習 1 毛筆用具の名前と、おき方やあつかい方 2 よいしせいと筆の持ち方 3 筆の「ほ」のやわらかさ 4 力入れ方(筆圧) 5 あとかたづけ	○1年間の学習内容や学習の進め方について知り、書写学習に対する意欲をもつことができる。 ○用具の扱い方や筆の持ち方について知り、よい姿勢や持ち方を意識して書くことができる。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな太さの線を書くことができる。	アイウ B ：毛筆で学習する意味や学習の進め方について理解している。 用具の扱い方、姿勢、筆の持ち方を理解している。 用具の扱い方、姿勢、筆の持ち方が身についている。 A ：毛筆で学習する意味や学習の進め方について、よく理解している。 用具の扱い方、姿勢、筆の持ち方を、よく理解している。 用具の扱い方、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 支援 ：教科書の姿勢図を確認し、「よいしせいの合い言葉」を一斉に唱えながら確かめられるようにする。 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。	B ：毛筆で学習する意味や学習の進め方の流れについて考えている。 用具の扱い方、姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方について考えている。 A ：毛筆で学習する意味や学習の進め方について、よく考えている。 用具の扱い方、姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さについて考えている。 支援 ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるのかを、基準に照らしてわかるようにする。	B ：毛筆書写に関心を持ち、取り組もうとしている。 用具を丁寧に扱っている。 よい姿勢や筆の持ち方を身につけようとしている。 ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 A ：毛筆書写に積極的に取り組もうとしている。 用具を適切に取り扱っている。 よい姿勢や筆の持ち方を、積極的に身につけようとしている。 常によりよい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 支援 ：用具の配置図や姿勢図、筆の持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。	
					アウ B ：穂の柔らかさと筆圧について知っている。 筆圧に気をつけて、いろいろな太さの線を書いている。 A ：穂の柔らかさと筆圧について、理解している。 筆圧を調整しながら、いろいろな太さの線を書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、筆圧のかけ方について理解を促す。 筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。	B ：筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力入れ方と太さを確かめられるようにする。	B ：筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな線を書く活動に取り組もうとしている。 ほかの書写場面でも、筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな線を書く活動に、積極的に取り組もうとしている。 常に筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して書こうとする意識をもっている。 支援 ：筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5月	2～3	11～13	2「横画」の筆使い『二』	<p>○「横画」の筆使い（始筆・送筆・終筆）について理解することができる。</p> <p>○「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○「横画」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：「横画」の筆使いについて理解している。「横画」の筆使いに気をつけて書いている。</p> <p>A：「横画」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。始筆・送筆・終筆の動作を「とん」「すうっ」などの言葉で表し、教科書のイラストでイメージをもちながら理解できるようにする。</p>	<p>B：「横画」の筆使いについて考えている。</p> <p>A：「横画」の筆使いの良しあしを考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。</p>	<p>B：「横画」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも「横画」に気をつけて書こうとする意識をもっていない。</p> <p>A：「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に「横画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、「横画」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「横画」に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
6月	2	14・15	3「たて画」の筆使い『土』	<p>○「たて画」の筆使い（始筆・送筆・終筆）について理解することができる。</p> <p>○「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○「たて画」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：「たて画」の筆使いについて理解している。「たて画」の筆使いに気をつけて書いている。</p> <p>A：「たて画」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。始筆・送筆・終筆の動作を「とん」「すうっ」などの言葉で表し、教科書のイラストでイメージをもちながら理解できるようにする。</p>	<p>B：「たて画」の筆使いについて考えている。</p> <p>A：「たて画」の筆使いの良しあしを考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。</p>	<p>B：「たて画」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、「たて画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に「たて画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、「たて画」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「たて画」に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
	適時	16	【知りたい 文字の世界】筆について知ろう	<p>○さまざまな筆があることを知り、興味・関心を高めることができる。</p>	アウ			<p>B：筆および筆で書くことに興味をもっている。ふだんの授業においても、筆を大切に扱う意識をもっている。</p> <p>A：筆および筆で書くことに興味をもち、積極的に調べようとしている。ふだんの授業においても、筆を大切に扱う意識をもち、実践している。</p> <p>支援：筆の作り方や材料に関するクイズを作成するなどして、興味・関心を高めるようにする。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	3	17～19	4 「はらい」の筆使い『大』	<p>○左右の「はらい」の筆使いの違いを理解することができる。</p> <p>○左右の「はらい」に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○「はらい」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：左右の「はらい」の筆使いの違いについて理解している。左右の「はらい」の筆使いに気をつけて書いている。</p> <p>A：左右の「はらい」の筆使いの違いについてよく理解し、筆圧について把握している。左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：力の入れ方（筆圧）について3段階で示して、理解できるようにする。筆の入れ方を確かめるとともに、姿勢、執筆などの基礎・基本を確かめられるようにする。</p>	<p>B：左右の「はらい」の筆使いについて考えている。</p> <p>A：左右の「はらい」の筆使いの良さや向きを考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認できるようにする。</p>	<p>B：左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。</p> <p>A：左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に左右の「はらい」の書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、「はらい」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、左右の「はらい」の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		20	＜こう筆の学習＞ 「はらい」	<p>○「はらい」の方向を理解することができる。</p> <p>○「はらい」の方向に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	ア	<p>B：左右の「はらい」の違いについて理解している。左右の「はらい」の方向の違いに気をつけて書いている。</p> <p>A：左右の「はらい」の違いや、さまざまな長さの「はらい」について、よく理解している。左右の「はらい」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字や分解文字などを使って、「はらい」の方向の違いが視覚的に理解できるようにする。左右の「はらい」の違いを中心とした書写カードを添削する。</p>	<p>B：左右の「はらい」の方向の違いについて考えている。</p> <p>A：左右の「はらい」の方向の違いや、さまざまな長さの「はらい」について、よく考えている。</p> <p>支援：それぞれの「はらい」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。</p>	<p>B：左右の「はらい」の方向に気をつけて、正しく書こうとしている。「はらい」を含む漢字や語句を書いている。</p> <p>A：左右の「はらい」の方向や、さまざまな長さの「はらい」に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。「はらい」を含むさまざまな漢字や語句を書いている。</p> <p>支援：毛筆で学習した、左右の「はらい」の方向の違いについて再確認する。学習した以外の文字でも、「はらい」の方向の違いに気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		21	【レッツ・トライ】 はがき —暑中みまい	<p>○はがきの形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。</p>	アイ	<p>B：文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。はがきの形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。</p> <p>A：文字の大きさや行の中心の揃え方について、よく理解している。はがきの形式に従って、文字の大きさや行の中心に気をつけて書いている。</p>	<p>B：はがきの形式に従って丁寧に書く方法について考えている。</p> <p>A：はがきの形式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。</p>	<p>B：はがきの形式を理解し、丁寧に書こうとしている。</p> <p>A：はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						<p>支援：教科書の紙面を参照しながら、はがきの形式について確かめている。それぞれの行に中心線を入れるなど、行が曲がらずに書くことができるようにする。</p>	<p>支援：はがきの表書きについて、相手の名前を大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。</p>	<p>支援：実際のはがきの例を提示することで関心を高めるようにする。</p>
9・10月	1	22・23	<p>【レッツ・トライ】</p> <p>①原こう用紙 —セーフティ教室の作文</p> <p>②カード —てらん会作品のカード</p>	<p>○原稿用紙の書き方（行頭のとり方や、ます目の中の書く位置）を理解することができる。</p> <p>○文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。</p> <p>○他教科の学習の中で、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。</p>	アイ	<p>B：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について理解している。文字の大きさと、ます目の中の書く位置に気をつけて書いている。</p> <p>A：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について、よく理解している。文字の大きさと、ます目の中の書く位置に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：教科書紙面で確認し、原稿用紙の書き方と展覧会作品のカードの書き方が理解できるようにする。文字の外形を囲み、平仮名や片仮名が漢字より小さく書かれているか確かめられるようにする。</p>	<p>B：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について考えている。</p> <p>A：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について、よく考えている。</p> <p>支援：一ますを四つにくぎり、句読点や拗音・濁音の書く位置について確かめられるようにする。読みやすい学習成果物の例はどのような工夫されているか、具体的なポイントを指摘する。</p>	<p>B：原稿用紙の書き方に気をつけて書こうとしている。展覧会作品のカードの書き方に関心をもっている。他教科の学習においても、原稿用紙の書き方や文字の大きさに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：原稿用紙の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。展覧会作品のカードの書き方に関心をもち、積極的に取り組んでいる。</p> <p>支援：国語の学習などで原稿用紙に書いた文字を、教科書の書き方と比べてみるようにする。読みやすい学習成果物の例を提示することで関心を高めるようにする。</p>
		24～26	<p>5 「おれ」と「はね」の筆使い 『力』</p>	<p>○「おれ」と「はね」の筆使いについて理解することができる。</p> <p>○「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○「おれ」と「はね」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：「おれ」と「はね」の筆使いを理解している。「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書いている。</p> <p>A：「おれ」と「はね」の筆使いについてよく理解し、筆圧について把握している。「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。穂先の通り道を確認するとともに、姿勢、執筆などの基礎・基本を確認められるようにする。</p>	<p>B：「おれ」と「はね」の筆使いについて考えている。</p> <p>A：「おれ」と「はね」の筆使いの良さあしを考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。</p>	<p>B：「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に「おれ」と「はね」に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、「おれ」と「はね」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	3～4	27	〈こう筆の学習〉 「おれ」と「はね」	○「おれ」と「はね」の方向を理解することができる。 ○「おれ」と「はね」の方向に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	ア	B ：「おれ」と「はね」の筆使いについて理解している。 「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書いている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いについてよく理解し、筆圧について把握している。 「おれ」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 「はね」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 「おれ」「はね」の方向を中心とした書写カードを添削する。	B ：「おれ」と「はね」の方向について考えている。 A ：「おれ」の方向の違いについて考えている。 「はね」の方向の違いについて考えている。 支援 ：「おれ」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。 「はね」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字でも「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「おれ」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 「はね」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：毛筆で学習した、「おれ」と「はね」の方向について再確認する。 学習した以外の文字でも、「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書くよう呼びかける。
10月		28・29	6 ひらがなの筆使い 『つり』	○平仮名の筆使いを理解することができる。 ○平仮名の筆使いに気をつけて書くことができる。 ○平仮名の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アウ	B ：平仮名の筆使いについて理解している。 平仮名の筆使いに気をつけて書いている。 A ：平仮名の筆使いについてよく理解し、筆使いについて把握している。 丸みのある柔らかい筆使いで書いている。 支援 ：漢字の筆使いと比較することによって、平仮名の筆使いを理解できるようにする。 ゆっくりと書くことで、丸みができることを確かめられるようにする。	B ：平仮名の筆使いについて考えている。 A ：平仮名の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認できるようにする。	B ：平仮名の筆使いに関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、平仮名の書き方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：平仮名の筆使いに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に平仮名の書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、平仮名の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、平仮名の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	30・31	〈こう筆の学習〉 筆順と字形	○筆順のきまりを理解し、字形を整えて書くことができる。 ○筆順のきまりを、他の文字でもあてはめて書くことができる。	ア	B ：筆順の原則を理解している。 筆順の原則に従って、正しく書いている。 A ：文字の筆順の原則について、よく理解している。 筆順の原則に従って、字形を整えて書いている。	B ：筆順の原則について、ほかの文字にもあてはめて考えている。 A ：筆順の原則や字形について、ほかの文字にもあてはめて、よく考えている。	B ：筆順の原則に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字でも、筆順の原則に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順の原則に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に筆順の原則に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						支援 ：教科書の脚注や巻末漢字表などを使って、正しい筆順について理解を促す。 今まで学習した筆順の原則を確かめられるようにする。	支援 ：教材文字のどの部分が筆順の原則にあたるのか説明することで、ほかの文字でも確かめられるようにする。	支援 ：筆順を色分けした図版などを使って、筆順に原則があることに気づくようにはたらきかける。 学習した以外の文字でも、筆順に従って書くように意識づける。
11月	1	32	【レッツ・トライ】 ①文化 ー俳句	○漢字と仮名の大きさや、行の中心のそろえ方について理解することができる。 ○漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	アイ	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について理解している。 漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書いている。 A ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について、よく理解している。 漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 支援 ：中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について考えている。 A ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方に気をつけて書こうとしている。 書写の授業以外でも、漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字と仮名の大きさに気をつけて、配列を整えて書こうとしている。 常に漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字と仮名の大きさや行の中心に着目するよう呼びかける。 書写の授業以外でも、漢字や仮名の大きさや行の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
	1	33～35	【レッツ・トライ】 ②手紙 ーお店見学のお礼 じょう	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	アイ	B ：文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。 手紙の形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：文字の大きさや行の中心の揃え方について、よく理解している。 手紙の形式に従って、文字の大きさと行の中心に気をつけて書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめている。 便箋の罫線に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。	B ：手紙の形式に従って丁寧に書く方法について考えている。 A ：手紙の書式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。 支援 ：相手の名前を上の方に書くことや、封筒の中央に大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	B ：手紙の形式を理解し、丁寧に書こうとしている。 A ：手紙の形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。 支援 ：実際の手紙の例を提示することで関心を高めるようにする。
11・12月			7 「曲がり」と「おれ」の筆使い『ビル』	○「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを理解することができる。 ○「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。	アウ	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについて理解している。 「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書いている。	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについて考えている。	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3～4	36・37	36・37		○「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。		<p>A：「曲がり」と「おれ」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。</p> <p>A：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：分解文字などを使って、「曲がり」と「おれ」の字形の違いが視覚的に理解できるようにする。「曲がり」では筆の軸を回さないように、「おれ」では一度筆を止めるように呼びかける。</p>	<p>A：「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いについて、よく考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。</p>	<p>A：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。</p> <p>常に「曲がり」と「おれ」に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、「曲がり」と「おれ」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
			<p><こう筆の学習> 「曲がり」と「おれ」</p>	<p>○「曲がり」と「おれ」の違いを理解することができる。</p> <p>○「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>B：「曲がり」と「おれ」の違いについて理解している。「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて書いている。</p> <p>A：「曲がり」と「おれ」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：「曲がり」や「おれ」がある文字をいくつか提示することによって、理解できるようにする。</p>	<p>B：「曲がり」と「おれ」の違いについて考えている。</p> <p>A：「曲がり」と「おれ」の違いについて、よく考えている。</p> <p>支援：「曲がり」と「おれ」を書く際の留意点について、具体的な言葉で説明できるようにする。</p>	<p>B：「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて書こうとしている。ほかの文字でも「曲がり」と「おれ」に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に「曲がり」と「おれ」に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：毛筆で学習した、「曲がり」と「おれ」の違いについて再確認する。学習した以外の文字でも、「曲がり」と「おれ」に気をつけて書くよう呼びかける。</p>	
			<p><こう筆の学習> 文字の組み立て方</p>	<p>○いろいろな文字の組み立て方について理解することができる。</p> <p>○文字の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>B：左右の幅の違い、上下の高さの違い、中と外の組み立て方について理解している。左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて書いている。</p> <p>A：左右の幅の違い、上下の高さの違い、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。</p>	<p>B：左右の幅、上下の高さ、中と外の組み立て方について考えている。</p> <p>A：左右・上下・中と外の組み立て方の良しあしを考えている。</p>	<p>B：いろいろな文字の組み立て方に気をつけて書こうとしている。ほかの文字でも左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：いろいろな文字の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて書こうとする意欲をもっている。</p>	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						支援： 拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。 左右の幅や上下の高さ、中と外の部分について意識できるようにする。	支援： 毛筆文字などを使って、組み立て方や幅が確かめられるようにする。	支援： 幅や高さの違いに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月	4～5	50～56	書きぞめ『正月』 小筆で書こう 書ぞめ『友だち』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○筆使いや文字の中心に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	アウ	B： 書きぞめの姿勢や筆の持ち方、筆使いについて理解している。 これまで学習した筆使いや文字の中心に気をつけて書いている。 A： 書きぞめの姿勢や筆の持ち方、筆使いについて、よく理解している。 これまで学習した筆使いや文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援： 今まで学習した筆使いについて、点画の名称を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B： 書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A： 書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援： 姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B： 書きぞめに関心を持ち、書こうとしている。 ほかの学習場面でも、よい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A： 書きぞめに関心を持ち、積極的に書こうとしている。 支援： 書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 ほかの学習場面でも、姿勢や持ち方、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
2・3月	4	40・41	点画のしゅるい	○3年生で学習した基本点画について確かめることができる。	アウ	B： これまでに学習した「点画の種類」について理解している。 A： これまでに学習した「点画の種類」について、よく理解している。 支援： 教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。		B： 3年生で学習した基本点画について確かめている。 ほかの文字でも、基本点画に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A： 3年生で学習した基本点画について、積極的に確かめている。 常に基本点画に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援： これまで学習したページを振り返るように促す。 学習した以外の文字でも、基本点画に気をつけて書くよう呼びかける。
		42～45	8 学習のまとめ『光』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。 ○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。 ○これまで学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	アイウ	B： これまで学習した筆使いや字形について理解している。 これまで学習したことを生かして、筆使いや字形に気をつけて書いている。 A： これまで学習した筆使いや字形について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。	B： これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A： これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。	B： これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A： これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、進んで書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						支援：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 学習事項の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	支援：『光』を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	支援：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		46	【知りたい 文字の世界】 「手書き文字」と「活字」	○手書き文字と活字の違いに気づき、文字に対する興味・関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られる活字と手書き文字について、話し合うことができる。	アイ	B ：手書き文字と活字の特徴がわかる。 A ：手書き文字と活字の特徴について、よく理解している。 支援：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、考えている。 A ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、よく考えている。 支援：教科書の例、または用意しておいた拡大文字例等を使い、手書き文字と活字の違いに気づくようにする。	B ：手書き文字と活字の違いに気づき、文字に関する関心を高めている。 手書き文字と活字の特徴について、意欲的に調べようという意識をもっている。 A ：手書き文字と活字の違いに気づき、積極的に調べようとしている。 手書き文字と活字の特徴について意識し、使い分けようという意識をもっている。 支援：文字に関するクイズを作成するなどして、興味・関心を高めるようにする。 身のまわりにある手書き文字と活字の例を提示して、目的に応じた使い方に気づくようはたらきかける。
		47	ローマ字表	○ローマ字の書き方を知ることができる。	アイ	B ：ローマ字の字形について理解している。 A ：ローマ字の字形について、よく理解している。 支援：字形がわかりにくい文字について、教科書を見ながら確認できるようにする。		B ：ローマ字の字形を確かめている。 常にローマ字の字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：ローマ字の字形を、積極的に確かめている。 常にローマ字の字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援：まちがえやすい字形について、重点的に確かめられるように呼びかける。 普段の学習で、常に気をつけるよう意識づける。
			【書いて つたえ合おう】 メモを取ってまとめよう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	アイ	B ：メモの書き方を理解している。 大事なことを開きのがさないようにメモを取っている。 読みやすく書くための方法について理解している。 メモをもとに伝えたいことをまとめている。	B ：大事なことをおさえてメモを取る工夫について考えている。 読みやすく書くための方法を意識して、まとめたものを見直している。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	48・49				<p>A：メモの書き方を，よく理解している。大事なことをおさえてメモを取っている。読みやすく書くための方法について，よく理解している。</p> <p>支援：教科書を見ながら，効率的にメモを取るにはどこを省略できるか確かめる。配列は整っているか，筆記用具は効果的に使われているかなど，具体的な投げかけをする。</p>	<p>A：大事なことをおさえてメモを取る工夫について，よく考えている。読みやすく書くための方法を意識して，まとめたものを見直したり工夫したりしている。</p> <p>支援：自分のメモに書き込みをして，課題を見つけるようにする。読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。</p>	<p>A：書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。</p> <p>支援：ふだんの生活のなかでメモを取る場面について問いかける。読みやすい学習成果物の例などを具体的に例示する。</p>
		57～60	<p>【漢字表】 三年生で学習する漢字 二年生で学習した漢字</p>	<p>○2年生で学習した字形の整え方，筆順などを確かめることができる。</p> <p>○3年生で学習した字形の整え方，筆順などを確かめることができる。</p> <p>○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり，筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。</p>	アイ	<p>B：同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて理解している。</p> <p>同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けをしている。</p> <p>A：同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて，よく理解している。同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字を正しく仲間分けしている。</p> <p>支援：これまで学習した基本，点画などの内容を振り返り，確かめられるようにする。どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。</p>	<p>B：これまで学習した字形の整え方，筆順について考えている。同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて考えている。</p> <p>A：これまで学習した字形の整え方，筆順について，よく考えている。同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて判断している。</p> <p>支援：教科書紙面を使って，正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。</p>	<p>B：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や，漢字の成り立ちについて，関心を高めている。ほかの学習場面でも，筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や，漢字の成り立ちについて関心を高め，積極的に取り組もうとしている。常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。書写の授業以外でも，気をつけるよう意識づける。</p>
		61	<p>【ひらがな表】 【かたかな表】 【やってみよう】</p>	<p>○平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめることができる。</p>	アイ	<p>B：平仮名，片仮名の筆順や字形について理解している。</p> <p>A：平仮名，片仮名の筆順や字形について，よく理解している。</p> <p>支援：ふだん，字形を整えにくい文字に関して，教科書を見ながら確認できるようにする。</p>		<p>B：平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめている。常に平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。</p> <p>A：平仮名，片仮名の筆順や字形を，積極的に確かめている。常に平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめて，丁寧に書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：まちがえやすい筆順について，重点的に確かめられるように呼びかける。書写の授業以外でも，常に気をつけるよう意識づける。</p>

令和5年度 年間学習指導計画・評価規準

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	世界の「こんにちは」	<p>○世界にはさまざまな文字があることを知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。</p> <p>○日本の文字の特徴について、興味・関心を高めることができる。</p>	アイウ	<p>B：世界にはさまざまな文字があることについて知っている。 日本の文字の特徴について知っている。</p> <p>A：世界にはさまざまな文字があることを理解している。 日本の文字について理解している。</p> <p>支援：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。</p>	<p>B：日常生活の中で見られる世界や日本の文字の印象について話し合い、考えている。</p> <p>A：日常生活の中で見られる世界や日本の文字の印象について進んで話し合い、よく考えている。</p> <p>支援：文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。</p>	<p>B：世界や日本の文字について、理解していこうとする意識をもっている。</p> <p>A：世界や日本の文字について、積極的に調べていこうとしている。</p> <p>支援：教科書の例、または用意しておいた世界の文字や日本の文字などを提示し、関心を高めるようにする。</p>
		2～5	四年生で学習すること 目次 学習の進め方	<p>○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。</p>	アイウ	<p>B：1年間のめあてや学習内容について知っている。</p> <p>A：1年間のめあてや学習内容について理解している。</p> <p>支援：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。</p>		<p>B：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。</p> <p>A：1年間の学習内容を知り、積極的に書写学習に取り組む意欲をもっている。</p> <p>支援：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。</p>
		6～14	<p>1 はじめの学習 1 毛筆用具の名前と置き方やあつかい方 2 よいしせいと筆の持ち方 3 3年生で学習したこと ■点画の種類 4 あとかたづけ</p>	<p>○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。</p> <p>○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。</p> <p>○常によりよい姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。</p> <p>○3年生で学習したことを確かめることができる。</p>	アイウ	<p>B：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。</p> <p>A：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。 用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。</p> <p>支援：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。 教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。</p>	<p>B：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。</p> <p>A：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを判断できている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。</p> <p>支援：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。 筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。 教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。</p>	<p>B：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 他の書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常によりよい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。 書写以外の学習でも気をつけるように呼びかける。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5月	2～3	15～17	2 点画の筆使い 『花』	<p>○点画の筆使いを確かめることができる。</p> <p>○点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○点画の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：点画の筆使いについて理解している。 点画の筆使いに気をつけて書いている。</p> <p>A：点画の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：他の文字の例を見ることによって、点画の筆使いを確かめられるようにする。 それぞれの課題解決ができるような練習用紙を使って、書きにくい部分が解決できるようなはたらきかける。</p>	<p>B：点画の筆使いについて考えている。</p> <p>A：点画の筆使いの良さあしを考えている。</p> <p>支援：穂先の向きと穂先の通り道はどうなっているか説明できるようにする。 空書することで、それぞれの筆使いを確かめるようにする。</p>	<p>B：点画の筆使いに気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：水書板などを使って、「はらい」「曲がり」などの筆使いを確かめられるようにする。</p>
6月	1	18・19	【レッツ・トライ】 発表しよう—学習内よ うをまとめる	<p>○横書きの書き方（行頭のそろえ方、字間、行間）を理解して、文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。</p> <p>○他教科の学習のなかで、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。</p>	アイ	<p>B：横書きの書き方と配列について理解している。 横書きの書き方を理解して、配列に気をつけて書いている。</p> <p>A：横書きの書き方をよく理解して、配列の整え方について把握している。 横書きの書き方を理解して、配列よく書いている。</p> <p>支援：簡条書きを書く際の行頭のあけ方や字間など、具体的な視点をあげて呼びかける。 補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。</p>	<p>B：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について話し合っている。</p> <p>A：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について、積極的に話し合っている。</p> <p>支援：どのように書いたら相手に伝わりやすいか、具体的な場面について投げかけるようにする。</p>	<p>B：書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて書こうとしている。</p> <p>A：書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて積極的に書こうとしている。</p> <p>支援：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。 書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて書くよう呼びかける。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	3～4	20・21	3 筆順と字形『左右』	<p>○筆順と字形の関係を理解することができる。</p> <p>○筆順に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○筆順と字形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：筆順と字形との関係について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。</p> <p>A：筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：他の文字の例を見ることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 画の長さや外形について、具体的に説明できるようにする。</p>	<p>B：筆順と字形との関係について考えている。</p> <p>A：筆順と字形との関係について、よく考えている。</p> <p>支援：分解文字などを使って、筆順と字形が確かめられるようにする。</p>	<p>B：筆順と字形に気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：字源を説明することで、筆順と字形に対する関心を高められるようにする。 学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		22・23	<こう筆の学習> 筆順と字形	<p>○筆順の原則を理解することができる。</p> <p>○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	ア	<p>B：筆順の原則について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。</p> <p>A：筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。</p>	<p>B：筆順の原則について考えている。</p> <p>A：筆順の原則についてよく考えている。 なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。</p> <p>支援：教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。</p>	<p>B：筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 他の書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。 書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	24・25	4 ひらがなの筆使い『はす』	<p>○「結び」の筆使いを理解することができる。</p> <p>○「結び」の筆使いや形の違いに気をつけて書くことができる。</p> <p>○「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：「結び」の筆使いについて理解している。「結び」の筆使いに気をつけて書いている。</p> <p>A：横の「結び」と縦の「結び」の筆使いの違いや字形について、よく理解している。「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、筆使いや形が視覚的に確かめられるようにする。教科書の図版を参照しながら縦の結びと横の結びの違いについて説明し、理解できるようにする。</p>	<p>B：「結び」の筆使いについて考えている。</p> <p>A：「結び」の筆使いの良さあしを考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。</p>	<p>B：「結び」の筆使いに気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、「結び」の字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に縦・横の「結び」の字形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、「結び」の筆使いや形に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「結び」の形の違いに気をつけて書くよう呼びかける。</p>
	1	26・27	【レッツ・トライ】ノート—理科のノート	<p>○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。</p> <p>○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意識をもち、工夫して書こうとすることができる。</p>	アイ	<p>B：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。</p> <p>A：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。</p> <p>支援：箇条書きで書く際の行頭のあけ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。自分の普段のノートを見直してみ、わかりにくい点はないか確かめるようにする。</p>	<p>B：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。</p> <p>A：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。</p> <p>支援：どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。</p>	<p>B：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもっている。書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。</p> <p>A：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。常にわかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。</p> <p>支援：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写以外の学習でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書くよう呼びかける。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9月	1	28・29	【レッツ・トライ】 はがき一けい老の日の はがき	○はがきの形式を理解し、 相手意識をもって丁寧に書 くことができる。 ○文字の大きさや行の中心 に気をつけて書くことがで きる。	アイ	B ：文字の大きさや行の中心の揃え方 について理解している。 はがきの形式に従って、文字の大き さに気をつけて書いている。 A ：文字の大きさや行の中心の揃え方 について、よく理解している。 はがきの形式に従って、文字の大き さと行の中心に気をつけて書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、 はがきの書式について確かめられるよ うにする。 はがきに対して文字が大きすぎたり小 さすぎたりしのように、教科書を見な がら確かめられるようにする。	B ：はがきの形式に従って丁寧に書く 方法について考えている。 A ：はがきの書式に従って、文字の大 きさや行の中心を整えて書く方法につ いて考えている。 支援 ：相手の名前を上の方に書くこ とや、はがきの中央に大きく書くの は、相手を敬う気持ちが表れているこ とを説明する。	B ：はがきの形式を理解し、丁寧に書 こうとしている。 A ：はがきの形式を理解し、相手意識 をもって丁寧に書こうとしている。 支援 ：実際のはがきの例を提示するこ とで関心を高めるようにする。
	2	30・31	5 文字の組み立て方 (左右) 『林』	○「へん」と「つくり」の 幅の違いと点画の形の変化 を理解することができる。 ○「へん」と「つくり」の 組み立て方に気をつけて、 字形を整えて書くことが できる。 ○「へん」の幅と点画の形 を確かめて、硬筆で字形を 整えて書くことができる。	アウ	B ：「へん」と「つくり」の幅の違い と点画の形の変化について理解して いる。 「へん」と「つくり」の組み立て方に 気をつけて書いている。 A ：「へん」と「つくり」の幅の違い と点画の形の変化についてよく理解 し、字形を把握している。 「へん」と「つくり」の組み立て方に 気をつけて、字形を整えて書い ている。 支援 ：他の文字の例を見ることによ って、点画のゆずり合いを比べてみるこ とができるようにする。 点画のゆずり合いが確認できるように する。	B ：「へん」と「つくり」の組み立て 方について考えている。 A ：「へん」と「つくり」の組み立て 方の良しあしを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の 組み立て方が確かめられるようにす る。	B ：「へん」と「つくり」の組み立て 方に気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、文字の組み立 て方に気をつけて書こうとする意識を もっている。 A ：「へん」と「つくり」の組み立 て方に気をつけて、字形を整えて書 こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書 こうとする意識をもっている。 支援 ：「へん」と「つくり」の組み立 て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、文字の組み 立て方に気をつけて書くよう呼びか ける。
10月	2	32・33	6 文字の組み立て方 (上下) 『笛』	○上の部分の高さと形の変 化を理解することができる。 ○上下の組み立て方に気 をつけて、字形を整えて書 くことができる。 ○上下の組み立て方を確 かめて、硬筆で字形を整 えて書くことができる。	アウ	B ：上の部分と下の部分の高さの違い と点画の形の変化について理解して いる。 上下の組み立て方に気をつけて書い ている。 A ：上の部分と下の部分の高さの違い と点画の形の変化についてよく理解 し、字形を把握している。 上下の組み立て方に気をつけて、字 形を整えて書いている。 支援 ：他の文字の例を見ることによ って、点画のゆずり合いを比べてみるこ とができるようにする。	B ：上下の組み立て方について考 えている。 A ：上下の組み立て方の良しあしを考 えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の 組み立て方が確かめられるようにす る。	B ：「へん」と「つくり」の組み立 て方に気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、文字の組み立 て方に気をつけて書こうとする意識を もっている。 A ：「へん」と「つくり」の組み立 て方に気をつけて、字形を整えて書 こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書 こうとする意識をもっている。 支援 ：学習した以外の文字でも、文字 の組み立て方に気をつけて書くよう 呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月	5～6	34～37	7 文字の組み立て方 (選たく) ①左右の組み立て方 『土地』 ②上下の組み立て方 『岩山』	○自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、めあてに気をつけて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解して、字形を整えて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アウ	B ：左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解している。左右・上下の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解し、字形を把握している。左右・上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：点画のゆずり合いや、自分の課題が視覚的に確かめられるようにする。点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B ：自分のめあてに適した教材を選択している。幅や高さ、形がどう変わっているか、考えている。 A ：自分のめあてに適した教材を、適切に選択している。幅や高さ、形がどう変わっているか、よく考えている。 支援 ：それぞれの教材文字は、幅や高さ、形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	B ：自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択しようとしている。他の文字や硬筆でも、自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書こうとしている。 A ：自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、めあてに気をつけて書こうとしている。常に自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書こうとしている。 支援 ：自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて、主体的に書くよう呼びかける。
		38	<こう筆の学習> 文字の組み立て方	○左右・上下の組み立て方と点画の変化について理解することができる。 ○左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方で構成される漢字の、点画の変化を見つける活動について、意欲的に取り組むことができる。	ア	B ：左右の幅の違い、上下の高さの違いと点画の変化について理解している。左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書いている。 A ：左右・上下の組み立て方と点画の変化についてよく理解し、字形を把握している。左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方と点画の変化が視覚的に理解できるようにする。左右の幅や上下の高さと点画の変化について意識できるようにする。	B ：左右の幅、上下の高さ、点画の変化について考えている。 A ：左右・上下の組み立て方、点画の変化の良しあしを考えている。 支援 ：毛筆文字などを使って、組み立て方や幅、点画の変化が確かめられるようにする。	B ：左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に取り組もうとしている。他の文字でも左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に、意欲をもって取り組もうとしている。常に左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書こうとする意欲をもっている。 支援 ：漢字合わせクイズを行ったり、部首のものと字について調べたりすることで、関心を高めるようにする。学習した以外の文字でも、組み立て方と点画の変化に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12月	1	39	【レッツ・トライ】 文化 ― 短歌	○文字の大きさと配列について理解することができる。 ○文字の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	アイ	B ：文字の大きさと配列について理解している。文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさと配列について考えている。 A ：文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月	3～4	50・51、53～56	書きぞめ 『元気』 『美しい空』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや中心に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて理解している。これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて、よく理解している。これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：今まで学習した筆使いについて、点画の名称を確認しながら理解できるようにする。書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心を持ち、書こうとしている。他の学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心を持ち、積極的に書こうとしている。常によりよい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。書写以外の学習でも、姿勢や持ち方、筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1月	適時	40	【知りたい 文字の世界】 さまざまなかるた	○さまざまなかるたについて知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	アイ			<p>B：さまざまなかるたについて調べようとしている。</p> <p>A：さまざまなかるたについて、積極的に調べようとしている。</p> <p>支援：学校にあるさまざまなかるたを例示することで、関心を高めるようにする。</p>
	1	41	【レッツ・トライ】 かるた—ぼうさいかるたを作る	<p>○これまで学習した内容を生かして、ぼうさいかるたの文字を書くことができる。</p> <p>○用紙全体に対する文字の大きさや配列を考えて書くことができる。</p>	アイ	<p>B：読みやすい文字の大きさや配列を理解している。 文字の大きさや配列に気をつけて防災かるたを書いている。</p> <p>A：読みやすい文字の大きさや配列について、よく理解している。 文字の大きさや配列を整えて、防災かるたを書いている。</p> <p>支援：行が曲がってしまう場合は鉛筆で薄く中心線を書いたり、文字を書く位置に丸で印をつけたりするよう呼びかける。</p>	<p>B：読みやすい文字の大きさや配列について考えている。</p> <p>A：読みやすい文字の大きさや配列について、よく考えている。</p> <p>支援：平仮名は漢字よりやや小さく書くこと、頭文字は大きく書くことなどを、具体的に説明する。</p>	<p>B：文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。 書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2・3月	4～5	42～45	8 学習のまとめ『平和』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	アイウ	B ：これまで学習した字形の整え方について理解している。 これまで学習したことを生かして、字形の整え方に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した字形の整え方について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、字形を整えて書いている。 支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 字形の整え方の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：教材文字と比べて批正することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		46	【知っておこう】手紙—学習発表会の案内の手紙	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	アイ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について、よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		
	適時	47～49	【書いて 伝え合おう】新聞—学級新聞を作ろう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	アイ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりしている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直している。 A ：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直したり工夫したりしている。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 他の学習場面でも、読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも進んで生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		52	【知っておこう】 メモーダム見学での聞き取りメモ	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	アイ	<p>B：メモの取り方について理解している。</p> <p>A：メモの取り方について、よく理解している。</p> <p>支援：教科書の紙面を参照しながら、メモの取り方について確かめられるようにする。</p>		
		57～60	【漢字表】 四年生で学習する漢字 三年生で学習した漢字	<p>○3年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。</p> <p>○4年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。</p> <p>○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。</p>	アイ	<p>B：同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて理解している。</p> <p>同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けをしている。</p> <p>A：同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて理解している。</p> <p>同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字を正しく仲間分けしている。</p> <p>支援：これまで学習した基本、点画などの内容を振り返り、確かめられるようにする。</p> <p>どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。</p>	<p>B：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。</p> <p>同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて考えている。</p> <p>A：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。</p> <p>同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて判断している。</p> <p>支援：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。</p> <p>どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。</p>	<p>B：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて、関心を高めている。</p> <p>書写以外の学習でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて関心を高め、進んで取り組もうとしている。</p> <p>常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。</p> <p>書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。</p>
		61	【ひらがな表】 【かたかな表】 【筆記用具の特ちょう】	○平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめることができる。	アイウ	<p>B：平仮名、片仮名の筆順や字形について理解している。</p> <p>A：平仮名、片仮名の筆順や字形について、よく理解している。</p> <p>支援：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。</p>		<p>B：平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめている。</p> <p>常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。</p> <p>A：平仮名、片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。</p> <p>常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。</p> <p>書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。</p>

令和5年度 年間学習指導計画・評価規準

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	場面に合わせた書き方のくふう	○さまざまな場面における書き方の工夫について知り、興味・関心を高めることができる。	アウ	<p>B：読みやすく書く方法について話し合っている。</p> <p>A：文字の大きさや適切な筆記用具の工夫など、具体的な要点をあげながら話し合っている。</p> <p>支援：文字の大きさや配列、筆記用具の工夫などについて、実際の掲示物を参照しながら理解できるようにする。</p>	<p>B：さまざまな場面における書き方の工夫について考えている。</p> <p>A：場面に応じた書き方の工夫について、よく考えている。</p> <p>支援：教科書の紙面を参照しながら、具体的な場面をあげて考えるようにする。</p>	<p>B：さまざまな場面における書き方の工夫について知り、興味・関心を高めている。</p> <p>A：さまざまな場面における書き方の工夫について理解し、興味・関心を高めている。常に相手意識をもって、読みやすさなどに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：これまでに書いたものの「読みやすさ」がどうだったか問いかけることで、ふだんの生活でも読みやすさについて意識するよう呼びかける。</p>
		2・3	五年生で学習すること 目次	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	アウ	<p>B：1年間のめあてや学習内容について知っている。</p> <p>A：1年間のめあてや学習内容について理解している。</p> <p>支援：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。</p>		<p>B：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。</p> <p>A：1年間の学習内容を知り、進んで書写学習に取り組む意欲をもっている。</p> <p>支援：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。</p>
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	<p>○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。</p> <p>○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。</p> <p>○常によりよい姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。</p>	アイウ	<p>B：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。</p> <p>A：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。</p>	<p>B：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを考えている。筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。</p> <p>A：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを判断できる。筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。</p>	<p>B：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。常によりよい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						<p>支援：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。</p>	<p>支援：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。</p>	<p>支援：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。</p>
5月	2～3	9・10	2 文字の組み立て方（中と外）『草原』	<p>○中と外の部分の組み立て方を理解することができる。</p> <p>○中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○中と外の部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アイウ	<p>B：中と外の部分の組み立て方について理解している。中と外の部分の組み立て方に気をつけて書いている。</p> <p>A：中と外の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：ほかの文字の例を見ることによって、中と外の部分の組み立て方を比べてみるができるようにする。</p>	<p>B：中と外の部分の組み立て方について考えている。</p> <p>A：中と外の部分の組み立て方の良さあしを考えている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。</p>	<p>B：中と外の部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：中と外の部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
	適時	11	【知りたい 文字の世界】 「活字」について知ろう	<p>○活字と手書き文字の違いに気づき、文字に対する興味・関心を高めることができる。</p> <p>○日常生活の中で見られる活字と手書き文字について、話し合うことができる。</p>	アウ	<p>B：手書き文字と活字の特徴がわかる。</p> <p>A：手書き文字と活字の特徴について、よく理解している。</p> <p>支援：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。</p>	<p>B：手書き文字と活字の違いについて話し合い、考えている。</p> <p>A：手書き文字と活字の違いについて話し合い、よく考えている。</p> <p>支援：教科書の例、または用意しておいた拡大文字例などを使い、手書き文字と活字の違いに気づくようにする。</p>	<p>B：手書き文字と活字の違いに気づき、文字に関する関心を高めている。手書き文字と活字の特徴について、積極的に調べようという意識をもっている。</p> <p>A：手書き文字と活字の違いに気づき、積極的に調べようとしている。手書き文字と活字の特徴について意識し、使い分けようという意識をもっている。</p> <p>支援：身のまわりにある手書き文字と活字の例を提示して、目的に応じた使い方に気づくようはたらきかける。</p>
6月			3 文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き『道』	<p>○「によう」と中の部分の組み立て方を理解することができる。</p> <p>○「によう」の筆使い（穂先の動きと筆圧）に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p>	アイウ	<p>B：「によう」と中の部分の組み立て方について理解している。「によう」の中の部分の組み立て方に気をつけて書いている。「によう」の筆使いに気をつけて書いている。</p>	<p>B：「によう」と中の部分の組み立て方について考えている。</p>	<p>B：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3		12・13		○中と外の部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。		<p>A：「によう」と中の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。「によう」の中の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。「によう」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：ほかの文字の例を見ることによって、中と外の部分の組み立て方を比べてみるができるようにする。「によう」の筆圧のかけ方が確認できるようにする。</p>	<p>A：「によう」と中の部分の組み立て方の良しあしを考えている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。</p>	<p>A：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		14	<p><硬筆の学習> 文字の組み立て方（中と外）</p>	<p>○中と外の部分の組み立て方を理解することができる。</p> <p>○中と外の部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>アウ</p> <p>B：中と外の部分の組み立て方について理解している。中と外の部分の組み立て方に気をつけて書いている。</p> <p>A：中と外の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。構成要素である部首について意識できるようにする。</p>	<p>B：中と外の部分の組み立て方について考えている。</p> <p>A：中と外の部分の組み立て方の良しあしを考えている。</p> <p>支援：教科書の図版を参照し、組み立て方の順序について確かめられるようにする。</p>	<p>B：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。ほかの文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意欲をもっている。</p> <p>支援：中と外の部分から構成されるさまざまな文字について調べることで、関心を高めるようにする。学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。</p>	
		15	<p>【レッツ・トライ】 文化 —『竹取物語』を書く</p>	<p>○文字の大きさと行の中心に気をつけて書くことができる。</p>	<p>アウ</p> <p>B：文字の大きさ、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について理解している。文字の大きさと配列に気をつけて書いている。</p> <p>A：文字の大きさ、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について、よく理解している。文字の大きさに気をつけて、配列を整えて書いている。</p> <p>支援：補助線を引くことで、文字の位置が視覚的に確かめられるようにする。中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。</p>	<p>B：文字の大きさや、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について考えている。</p> <p>A：文字の大きさや、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について、よく考えている。</p> <p>支援：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。</p>	<p>B：文字の大きさと配列に気をつけて書く意欲をもっている。書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：文字の大きさと配列に気をつけて書く意欲をもち、積極的に取り組んでいる。常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：教科書を見ることで、今まで学習した配列のポイントについて確かめるようにする。書写の授業以外でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。</p>	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7月	2～3	16・17	4 筆順と字形『成長』	<p>○筆順と字形（点画の接し方など）との関係を理解することができる。</p> <p>○「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○筆順と点画の接し方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アイウ	<p>B：筆順と字形との関係について理解している。「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて書いている。</p> <p>A：筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：ほかの文字の例を見ることによって、筆順と字形との関係を確かめられるようにする。筆順と接し方について、具体的に説明できるようにする。</p>	<p>B：筆順と字形との関係について考えている。</p> <p>A：筆順と字形との関係について、よく考えている。</p> <p>支援：分解文字などを使って、筆順と字形との関係を確かめられるようにする。</p>	<p>B：筆順と字形に気をつけて書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：点画どうしの接し方について説明することで、筆順と字形に対する関心を高める。学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		18	〈硬筆の学習〉 筆順と字形	<p>○筆順の原則を理解することができる。</p> <p>○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アウ	<p>B：筆順の原則について理解している。筆順と字形に気をつけて書いている。</p> <p>A：筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。正しい筆順で、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。</p>	<p>B：筆順の原則について考えている。</p> <p>A：筆順の原則についてよく考えている。なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。</p> <p>支援：教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。</p>	<p>B：筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。ほかの書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
9月	1	19～21	【レッツ・トライ】 メモ —工場見学のメモ	<p>○さまざまな場面に適した書き方について、話し合うことができる。</p> <p>○メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かす意欲をもつことができる。</p>	アウ	<p>B：メモの取り方について理解している。目的に応じた書き方について理解している。メモの取り方を知り、立ったり座ったりしてメモを取っている。</p> <p>A：メモの取り方について、よく理解している。目的に応じた書き方について、よく理解している。メモの取り方を理解して、立ったり座ったりしてメモを取っている。</p>	<p>B：さまざまな場面に適した書き方について考え、話し合っている。</p> <p>A：さまざまな場面に適した書き方についてよく考え、話し合っている。</p>	<p>B：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。書写以外の学習場面でも、目的に応じた書き方で書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に進んで生かしていこうとする意欲をもっている。常に目的に応じた書き方で書こうとする意識をもっている。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9・10月	2	22・23	5 文字の大きさ(漢字どうし)『白雲』	○漢字どうしの形や大きさの違いを理解することができる。 ○漢字どうしのつり合いに気をつけて書くことができる。 ○漢字どうしの大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アイウ	支援 ：教科書の紙面を参照しながら、書き方のポイントについて確認する。書きにくい場合は、筆圧や姿勢について確かめられるようにする。 B ：漢字どうしの形や大きさの違いについて理解している。漢字どうしのつり合いに気をつけて書いている。 A ：漢字どうしの形や大きさの違いについてよく理解し、字形を把握している。漢字どうしのつり合いに気をつけて、字形を整えてよく書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。外形が書いてある練習用紙を使うことで、文字の大きさが確かめられるようにする。	支援 ：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。 B ：漢字どうしの形や大きさの違いについて考えている。 A ：漢字どうしの形や大きさの違いについて、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写の授業以外でも、目的に応じた書き方で書くよう呼びかける。 B ：漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとしている。書写以外の学習場面でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字どうしのつり合いに気をつけて、字形を整えてよく書こうとしている。常に漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字どうしの大きさに着目するよう呼びかける。書写の授業以外でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書くよう呼びかける。
	2～3	24・25	6 文字の大きさ(漢字と平仮名)『登る』	○漢字と仮名の形や大きさの違いを理解することができる。 ○漢字と仮名のつり合いに気をつけて書くことができる。 ○漢字と仮名の大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アイウ	B ：漢字と仮名のつり合いについて理解している。漢字と仮名のつり合いに気をつけて書いている。 A ：、漢字と仮名のつり合いについてよく理解し、字形を把握している。漢字と仮名のつり合いに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。外形が書いてある練習用紙を使うことで、文字の大きさが確かめられるようにする。	B ：文字の形や大きさの違いについて考えている。 A ：文字の形や大きさの違いについて、よく考えている。 支援 ：それぞれの教材文字は、大きさや形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	B ：漢字と仮名のつり合いに気をつけて書こうとしている。書写以外の学習場面でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字と仮名のつり合いに気をつけて、字配りよく書こうとしている。常に漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。
	適時	26	【知りたい 文字の世界】平仮名のもとになる漢字	○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	アウ	B ：平仮名の字源について理解している。 A ：平仮名の字源について、よく理解している。 支援 ：漢字をくずした文字を実際に書いてみることで、字形の変化を感じられるようにする。		B ：ほかの平仮名についても、字源について関心をもち調べている。 A ：ほかの平仮名についても、字源について関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：ほかの平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月	3	27～29	7 穂先の動きと、線のつながり『あこがれ』	○穂先の動きと線のつながりについて理解することができる。 ○用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書くことができる。 ○線のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アイウ	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて理解している。 穂先の動きとつながりに気をつけて書いている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて、よく理解している。 穂先の動きと、線と線とのつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて考えている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、次の線へのつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に次の線へのつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、次の線へのつながりに気をつけて書くよう呼びかける。
	2	30～33	【レッツ・トライ】ポスター —委員会のポスター—	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記用具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	2	34・35	8 用紙に対する文字の大きさと配列 年賀状	○用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書くことができる。 ○学習したことを生かして、年賀状を書くことができる。	アイウ	B ：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。 用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。 用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 支援 ：用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。	B ：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。 A ：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：用紙に対する文字数を考えて文字の大きさを決めるよう助言する。	B ：ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：実際のはがきの例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12・1月	4～5	44～48	書きぞめ 『初春』 『世界の国』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について、よく理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：今まで学習した内容について、教科書を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良しあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心を持ち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心を持ち、積極的に書こうとしている。 常に姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写の授業以外の書写場面でも、姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	36・37	【書いて 伝え合おう】 はがき 一年賀状、絵はがき を書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	アイウ	B ：相手に伝わりやすい効果的な書き方について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりしている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を意識して、はがきを見直している。 A ：読みやすく書くための基準を意識して、はがきを見直したり工夫したりしている。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 ほかの学習場面でも、読みやすく書くために工夫している意識をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも進んで生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫している意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2・3月	4～5	38～41	9 学習のまとめ『考える子』	<p>○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。</p> <p>○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。</p> <p>○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。</p>	アイウ	<p>B：これまで学習した文字の大きさや字形の整え方について理解している。これまで学習したことを生かして、漢字と平仮名の大きさに気をつけて書いている。</p> <p>A：これまで学習した文字の大きさや字形の整え方について、よく理解している。これまで学習したことを生かして、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書いている。</p> <p>支援：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。配列よく書くための要点について具体的に示すようにする。</p>	<p>B：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。</p> <p>A：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。</p> <p>支援：『考える子』を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。</p>	<p>B：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。硬筆の学習でも、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。常に漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：1年間の学習内容や筆使いなどが確かめられるようにする。書写の授業以外でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
			【知っておこう】手紙 一工場見学のお礼の手紙	<p>○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。</p>	アウ	<p>B：手紙の書き方について理解している。</p> <p>A：手紙の書き方について、よく理解している。</p> <p>支援：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。</p>		

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	49～52	【漢字表】 五年生で学習する漢字 四年生で学習した漢字	○4年生で学習した字形の整え方などを確かめることができる。 ○5年生で学習した筆使いや筆順、組み立て方などを確かめることができる。 ○漢字表を活用した、漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	アウ	B ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて、よく理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字を正しく仲間分けしている。 支援 ：今まで学習した文字の組み立て方などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 辞典などを使って、漢字の部分について調べるようにする。	B ：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて判断している。 支援 ：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	B ：漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて、関心を高めている。 ほかの学習場面でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて関心を高め、積極的に取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。
		53	【平仮名表】 【すみ・すずり・紙の作り方】	○平仮名の字形や筆順を確かめることができる。	アイ	B ：平仮名、片仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。		B ：平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。

令和5年度 年間学習指導計画・評価規準

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	文字の旅	○日本の文字の歴史について知り、興味・関心を高めることができる。	アウ	B ：日本の文字の歴史について知っている。 A ：日本の文字の歴史について理解している。 支援 ：これから社会科で学習する内容と関連づけて説明するようにする。話し合いの観点として、文字の歴史に関することで知っていることがあるか、問いかけるようにする。	B ：文字が日本に伝わって現代に至るまでの流れについて考えている。 A ：文字が日本に伝わって現代に至るまでの流れについて、よく考えている。 支援 ：教科書紙面を見ながら、全体の流れについて確かめられるようにする。	B ：日本の文字の歴史について関心をもち、調べていこうという意識をもっている。 A ：日本の文字の歴史について関心をもち、積極的に調べていこうという意識をもっている。 支援 ：教科書の図版について、見たことのあるものはあるか問いかける。他教科との関連を知らせることで、関心がもてるようにはたらきかける。
		2・3	六年生で学習すること 目次	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	アウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A ：1年間の学習内容を知り、進んで書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常によりよい姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを考えている。筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを判断できる。筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。常によりよい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						<p>支援：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。</p>	<p>支援：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。</p>	<p>支援：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。</p>
5・6月		9・10	2 文字の大きさと配列 『歩む』	<p>○文字の大きさと配列を理解することができる。</p> <p>○文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○文字の大きさと配列を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	アイウ	<p>B：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。</p> <p>A：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。</p> <p>支援：練習用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。</p>	<p>B：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。</p> <p>A：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。</p> <p>支援：教科書の文字例から、つり合いがとれていない文字の理由について問いかける。</p>	<p>B：ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：漢字と仮名を組み合わせた文章の例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。</p>
	3～4	11	【レッツ・トライ】 メモ 一話し合いメモ	<p>○目的にふさわしい書く速さについて理解することができる。</p> <p>○許容される書き方について知り、関心をもつことができる。</p>	アウ	<p>B：目的に応じた書き方について理解している。許容される書き方について知っている。</p> <p>A：目的に応じた書き方について、よく理解している。許容される書き方について理解している。</p> <p>支援：許容される書き方について、使用すると便利な場面や、使用を控えた方がよい場面について、確かめられるようにする。</p>	<p>B：さまざまな場面に適した書き方について、話し合っている。</p> <p>A：さまざまな場面に適した書き方について、積極的に話し合っている。</p> <p>支援：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。</p>	<p>B：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方を知り、関心をもっている。</p> <p>A：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に積極的に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方について関心を持ち、積極的に調べている。</p> <p>支援：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。許容される書き方について、教科書を参照しながら点画の変化した形を確かめられるようにする。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	3	12・13	3 文字の組み立て方（三つの部分） 『湖』	○三つの部分の組み立て方を理解することができる。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○三つの部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アイウ	B ：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解している。三つの部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみることができるようにする。点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B ：三つの部分の組み立て方について考えている。 A ：三つの部分の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B ：三つの部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：三つの部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
		14	<硬筆の学習> 文字の組み立て方（左右、上下、中と外）	○左右、上下、中と外の組み立て方について理解することができる。 ○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アウ	B ：左右、上下、中と外の組み立て方について理解している。左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。	B ：左右、上下、中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：教科書の図版を参照し、組み立て方について確かめられるようにする。	B ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 支援 ：左右、上下、中と外から構成されるさまざまな文字について調べること、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	15		【レッツ・トライ】 ノート 一語のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもち、工夫して書くことができる。	アウ	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。 支援 ：簡条書きで書く際の行頭のあげ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。自分の普段のノートを見直してみ、わかりにくい点はないか確かめるようにする。	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。 支援 ：どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。	B ：書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。 支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。
1	16・17		【レッツ・トライ】 リーフレット 一校外学習のリーフレット	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記用具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
適時	18		【知りたい 文字の世界】 文字の成り立ち	○身のまわりで見られる文字を知り、興味・関心を高めることができる。 ○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	アウ			B ：文字の成り立ちについて関心をもち調べている。 A ：文字の成り立ちについて関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：ほかの平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9月	3	19～21	4 文字の大きさと配列、点画のつながり 『思いやり』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	アイウ	B ：点画のつながりについて理解している。 配列のポイントについて理解している。 点画のつながりに気をつけて書いている。 用紙に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 A ：点画のつながりについて、よく理解している。 配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて配列よく書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 中心線が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	B ：点画のつながりについて考えている。 用紙に対する文字の大きさと配列について考えている。 A ：点画のつながりについて、よく考えている。 用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：点画のつながりについて関心をもっている。 配列に気をつけて書こうとしている。 A ：点画のつながりや用紙に対する文字の大きさや配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に点画のつながりや用紙に対する文字の大きさ、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
10月	1	22・23	【レッツ・トライ】 文化 —『枕草子』を書く	○文字の大きさと配列に気をつけて書くことができる。	アウ	B ：文字の大きさと配列について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。 行の中心と余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさを視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさと配列について考えている。 A ：文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：伝統的言語文化の教材を書く意欲をもっている。 文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：伝統的言語文化の教材を積極的に書こうとしている。 文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：まだ学習していない漢字については、筆順と字形を確認するよう呼びかける。 教科書の教材は、配列の整え方がどのようになっているか、確かめられるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	24・25	【知りたい 文字の世界】 生活と文字	○日常生活の中で見られるさまざまな文字を探し、文字に対する関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られるさまざまな文字の印象について、話し合うことができる。	アウ	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について知っている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について話し合い、考えている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について積極的に話し合い、よく考えている。 支援 ：文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について、調べようとする意識をもっている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について、積極的に調べようとする意識をもっている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた文字資料を提示し、興味・関心を高めるようにする。
	3～4	26・27	5 文字の大きさと配列、点画のつながり（小筆） 『この道や行く人なしに秋の暮』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。	アイウ	B ：配列のポイントについて理解している。 点画のつながりについて理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書いている。 点画のつながりに気をつけて書いている。 A ：配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりについて、よく理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて配列よく書いている。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見せ合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	B ：用紙全体に対する文字の大きさについて考えている。 点画のつながりについて考えている。 A ：用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。 点画のつながりについて、よく考えている。 支援 ：筆意に着目するよう促し、穂先の動きが確かめられるようにする。	B ：配列や点画のつながりについて関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：配列や点画のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に用紙全体に対する文字の大きさにや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11月	2	28・29	【レッツ・トライ】 小筆 —小筆を生かして書く	○小筆を学習や生活の中で生かす活動に、意欲的に取り組むことができる。 ○筆使いに気をつけて、小筆で書くことができる。 ○行の中心や余白のとり方に気をつけて書くことができる。	アイウ	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列について理解している。 筆使いに気をつけて、小筆で書いている。 配列や余白のとり方に気をつけて書いている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列についてよく理解し、字形を把握している。 筆使いに気をつけて、字形を整えて小筆で書いている。 余白のとり方に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：教科書の教材文字を参照し、小筆の筆使いが確かめられるようにする。 小筆の持ち方や筆使い、字配りの要点が視覚的に理解できるようにする。	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列を考えている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列の良しあしを考えている。 支援 ：小筆の持ち方の図を使って、持ち方を確かめられるようにする。	B ：小筆を学習や生活の中で生かす活動に、意欲的に取り組もうとしている。 日常生活においても、小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：小筆を学習や生活の中で生かす活動に、積極的に取り組もうとしている。 常に小筆で字配りよく書こうとする意識をもっている。 支援 ：小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけるよう呼びかける。 日常生活におけるいろいろな機会でも、小筆を活用して、配列よく書くよう呼びかける。
11・12月	4～5	30～33	■好きな言葉を書く （『実現』『夢』『仲間』『友情』）	○好きな言葉を選び、自分のめあてを設定し、めあてに気をつけて書くことができる。 ○6年間で学習したことを生かして、意欲的に取り組むことができる。 ○毛筆で選んで書いた言葉を、硬筆で書いて確かめることができる。	アイウ	B ：これまで学習した配列や字形の整え方について理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて書いている。 A ：これまで学習した配列や字形の整え方について、よく理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 それぞれの教材における要点について、個別に支援するようにする。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：選んだ教材を試書することで、自分のめあてが見つけれられるように支援する。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、書こうとしている。 ほかの学習場面においても、字形の整え方や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、積極的に書こうとしている。 常に字形や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分が書いてみたい言葉を選び、その教材におけるポイントを確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形や文字の大きさ、配列に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月			書きぞめ 『理想』 『伝統を守る』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。 B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	4～5	43, 45～48		<p>えて書くことができる。</p> <p>○文字の中心に気をつけて書くことができる。</p>		<p>A：書きぞめの姿勢や筆の持ち方，文字の大きさや組み立て方，文字の中心について，よく理解している。これまで学習した文字の大きさや組み立て方，文字の中心に気をつけて，配列よく書いている。</p> <p>支援：教科書で学習した文字の組み立て方のポイントについて振り返ることで，確かめられるようにする。書きぞめ用紙を縦半分に折り，中心を意識できるようにする。外形を考えると，文字の大きさについて確かめられるようにする。</p>	<p>A：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。</p> <p>支援：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って，確かめられるようにする。</p>	<p>A：書きぞめに関心をもち，積極的に書こうとしている。常に姿勢や筆の持ち方，文字の大きさや組み立て方，文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：書きぞめの由来を説明し，書きぞめについて関心が高まるようにする。書写の授業以外でも，姿勢や筆の持ち方，文字の大きさや組み立て方，文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		44	はってん —「行書」	<p>○中学校で学習する行書の書き方について，興味・関心を高めることができる。</p>	アイウ			<p>B：中学校で学習する行書について，関心を高めている。</p> <p>A：中学校で学習する行書について関心を高め，積極的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>支援：身のまわりで見られる行書で書かれた文字を例示して，関心を高める。</p>
2・3月	3～4	34・35	6 学習のまとめ『旅立ちの時』	<p>○これまで学習したことを生かして，自分のめあてを選んで，意欲をもって書くことができる。</p> <p>○文字の大きさに気をつけて書くことができる。</p> <p>○学習したことを生かして，硬筆で書いて確かめることができる。</p>	アイウ	<p>B：これまで学習した内容について理解している。これまで学習したことを生かして，自分の課題に気をつけて書いている。文字の大きさや配列に気をつけて書いている。</p> <p>A：これまで学習した内容について，よく理解している。これまで学習したことを生かして，自分の課題に気をつけて，字形を整えて書いている。文字の大きさや配列に気をつけて，丁寧に書いている。</p> <p>支援：学級全体で意見を出し合い，1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。中心線を引いたり，文字の外形を囲んだりして，具体的に示すようにする。</p>	<p>B：1年間の学習を振り返り，自分の課題について考えている。文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。</p> <p>A：1年間の学習を振り返り，自分の課題について，よく考えている。文字の大きさや配列に気をつけて，字形を整えて書こうとしている。</p> <p>支援：これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。</p>	<p>B：1年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を確かめようとしている。ほかの学習場面でも，文字の大きさや配列など，これまで学習したことに気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：1年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を積極的に確かめようとしている。常に文字の大きさや配列など，これまで学習したことに気をつけて，丁寧に書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：これまで学習した教科書紙面を参照し，学習内容を確かめられるようにする。書写の授業以外でも，文字の大きさや配列，字形などに気をつけて書くよう呼びかける。</p>
			六年間で学習したこと	<p>○文字の形や大きさ，組み立て方などに気をつけて，字形を整えて書くことができる。</p>	アイウ	<p>B：これまで学習した内容について理解している。文字の大きさや配列について理解している。</p>	<p>B：6年間の学習を振り返り，自分の課題について考えている。文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。</p>	<p>B：6年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を確かめようとしている。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		36・37		○縦罫線の用紙に、配列に気をつけて書くことができる。 ○6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめることができる。		A ：これまで学習した内容について、よく理解している。 文字の大きさや配列について、よく理解している。 支援 ：学級全体で意見を出し合い、1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。	A ：1年間の学習を振り返り、自分の課題について、よく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 支援 ：これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	A ：1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を進んで確かめようとしている。 支援 ：これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容を確かめられるようにする。
		38・39	【知っておこう】手紙 —お願いの手紙	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	アウ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について、よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		
		40～42	【書いて 伝え合おう】卒業制作 —思い出に残る言葉を書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	アイウ	B ：効果的に書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：効果的に書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：効果的に書くための基準について確かめられるようにする。	B ：ほかの学習場面でも、配列に気をつけて書くことを、その目的や効果を考えて成果物に生かそうとしている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 常に書く目的や効果を考えて、書写で学習した内容を日常生活に生かそうとしている。 支援 ：昨年の6年生が制作した成果物例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	適時		【漢字表】 六年生で学習する漢字 五年生で学習した漢字	○5年生で学習した字形の整え方などを確かめることができる。 ○6年生で学習した筆使いや筆順、組み立て方などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した、漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順がまちがえ	アウ	B ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについてよく理解している。	B ：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探	B ：巻末漢字表を使った仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて、関心を高めている。 ほかの学習場面でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：巻末漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて関心を高め、積極的に取り組もうとし

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習指導要領の内容	評価規準		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		49～52		やすい漢字について確かめたりすることができる。		同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字を正しく仲間分けしている。 支援 ：今まで学習した文字の組み立て方などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 辞典などを使って、漢字の部分について調べるようにする。	すなど、漢字の仲間分けについて判断している。 支援 ：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	ている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。
		53	【平仮名表】 【消しゴム印の作り方】	○平仮名の字形や筆順について確かめることができる。	アウ A ：平仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。	B ：平仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。	B ：平仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 常に平仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。	